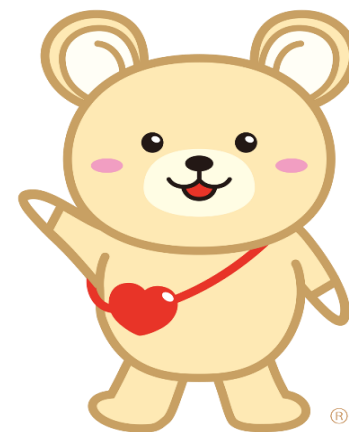


# 2025年度 卒業時調査報告書

淑徳大学 大学教育向上委員会、高等教育研究開発センター、評価・IR室



**【調査概要】**

[目的]

卒業生を対象に「本学の卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に基づいた教育・学修成果について点検・評価することにより、今後の教育内容・方法・評価等改善課題等を明らかにすることを目的とする。本調査の調査分析結果は、大学教育向上委員会や高等教育研究開発センターをはじめ、各委員会で教育研究等の改善に活用する。

[対象]

淑徳大学学生（2025年度3月卒業の4年生）

[調査実施時期]

各キャンパス卒業式の学位記配布時等

[調査方法]

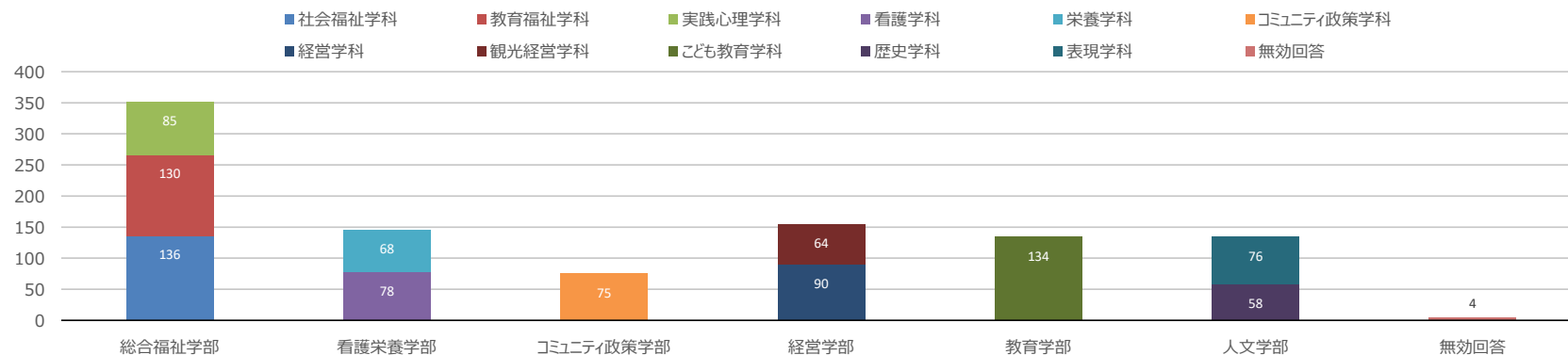
マークシート

[調査実施及び集計分析担当]

▶調査実施：大学教育向上委員会、高等教育研究開発センター ▶集計分析：評価・IR室

**【回収率】**

学部名	学科名	対象者	回答枚数	回収率
総合福祉学部	社会福祉学科	156	136	87.2%
	教育福祉学科	146	130	89.0%
	実践心理学科	100	85	85.0%
看護栄養学部	看護学科	90	78	86.7%
	栄養学科	85	68	80.0%
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科	85	75	88.2%
経営学部	経営学科	99	90	90.9%
	観光経営学科	65	64	98.5%
教育学部	こども教育学科	136	134	98.5%
人文学部	歴史学科	58	58	100.0%
	表現学科	81	76	93.8%
不明		-	4	-
大学全体		1101	998	90.6%



**【設問概要】**

設問の内容については、「大学の満足度について」と「能力や知識の変化について」の2つに大別している。

また、集計分析にあたっては、今年度より試行的に設問に応じたカテゴリ分けを行い、設問別だけでなく、カテゴリ別でもまとめている。

なお、今後については本学のディプロマ・ポリシーとの対応性を踏まえ、設問の設計の見直しを検討する。

**【設問：大学の満足度について】**

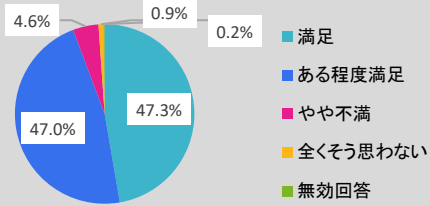
	設問	満足	ある程度満足	やや不満	全くそう 思わない	カテゴリ	カテゴリ名
1	大学の満足度について	4	3	2	1	①	全体
2	基礎教育について	4	3	2	1	②	正課
3	専門教育について	4	3	2	1	②	正課
4	学習に関する支援について	4	3	2	1	④	学修支援
5	キャリア・就職支援プログラムについて	4	3	2	1	⑤	キャリア支援
6	授業外の教育プログラムや正課外講座について	4	3	2	1	③	正課外
7	部活やサークルなどの課外活動について	4	3	2	1	③	正課外
8	教員の指導や対応について	4	3	2	1	④	学修支援

**【設問：能力や知識の変化について】**

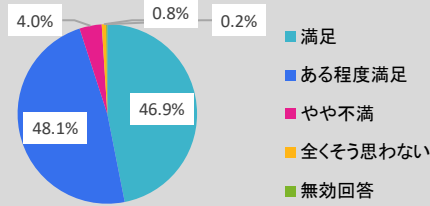
	設問	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	カテゴリ	カテゴリ名
9	人類の文化、社会と自然に関する知識（いわゆる一般的な教養）が増えた	4	3	2	1	E	DP【1】（5）人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。
10	専門分野に関する知識が身についた	4	3	2	1	F	DP【2】（1）自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
11	データや情報を収集・分析し、表現する力が増えた	4	3	2	1	B	DP【1】（2）情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
12	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力が増えた	4	3	2	1	C	DP【1】（3）課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
13	社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力が増えた	4	3	2	1	D	DP【1】（4）自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
14	卒業後も自ら学び続けることのできる習慣が身についた	4	3	2	1	D	DP【1】（4）自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
15	これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力が身についた	4	3	2	1	G	DP【2】（2）修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

## 設問別：大学全体の回答結果【大学の満足度について】

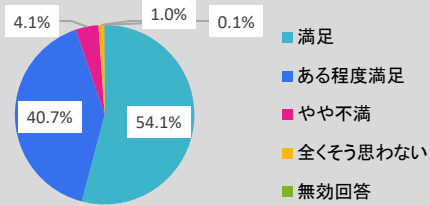
Q1.大学の満足度について



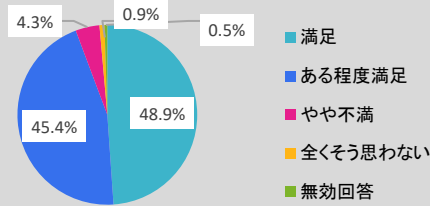
Q2.基礎教育について



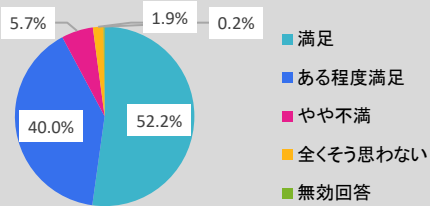
Q3.専門教育について



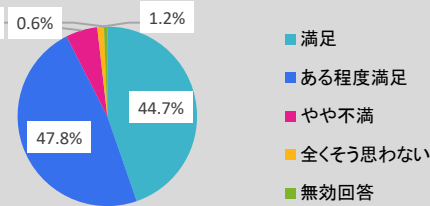
Q4.学習に関する支援について



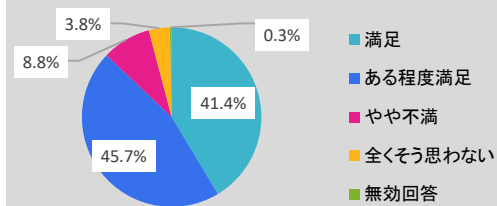
Q5.キャリア・就職支援プログラムについて



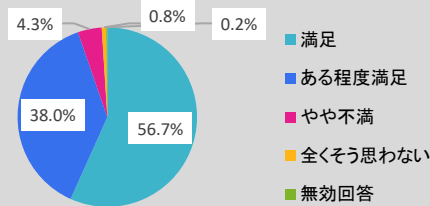
Q6.授業外の教育プログラムや正課外講座について



Q7.部活やサークルなどの課外活動について



Q8.教員の指導や対応について

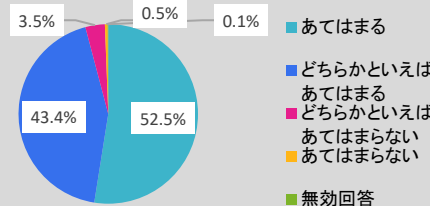


### 集計結果の分析

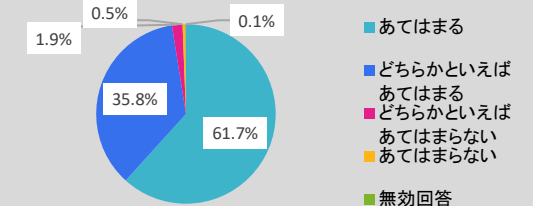
全設問で約90%前後の肯定率を記録し、教育環境への高い信頼が伺えます。特に専門教育（Q3）と教員指導（Q8）の評価が極めて高く、教員との密な交流が学習意欲や満足度を支えていると推察されます。学習支援体制も有効に機能しており、教育プロセスの質の高さが満足度の源泉です。一方、唯一90%を下回った課外活動（Q7）は、学修面の充実と比較して活動機会や参画状況に個人差が生じている可能性を示唆しています。

## 設問別：大学全体の回答結果【能力や知識の変化について】

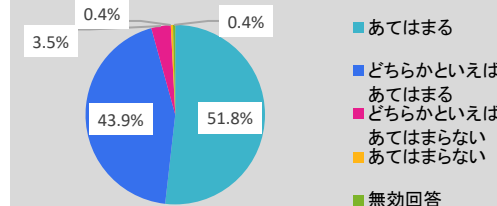
Q9.人類の文化、社会と自然に関する知識（いわゆる一般的な教養）が増えた



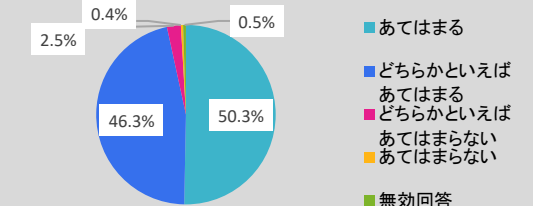
Q10.専門分野に関する知識が身についた



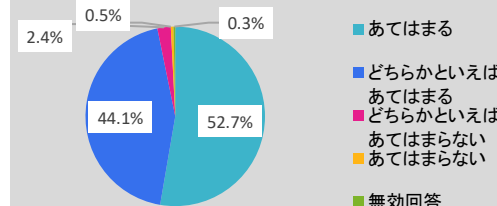
Q11.データや情報を収集・分析し、表現する力が増えた



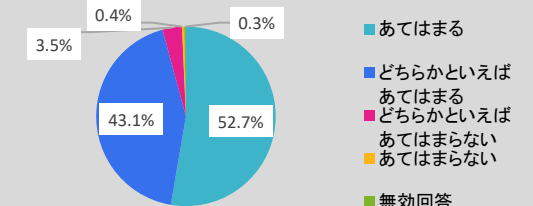
Q12.問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力が増えた



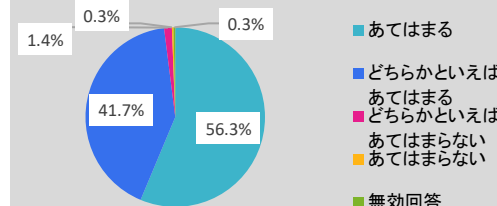
Q13.社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力が増えた



Q14.卒業後も自ら学び続けることのできる習慣が身についた



Q15.これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力が身についた

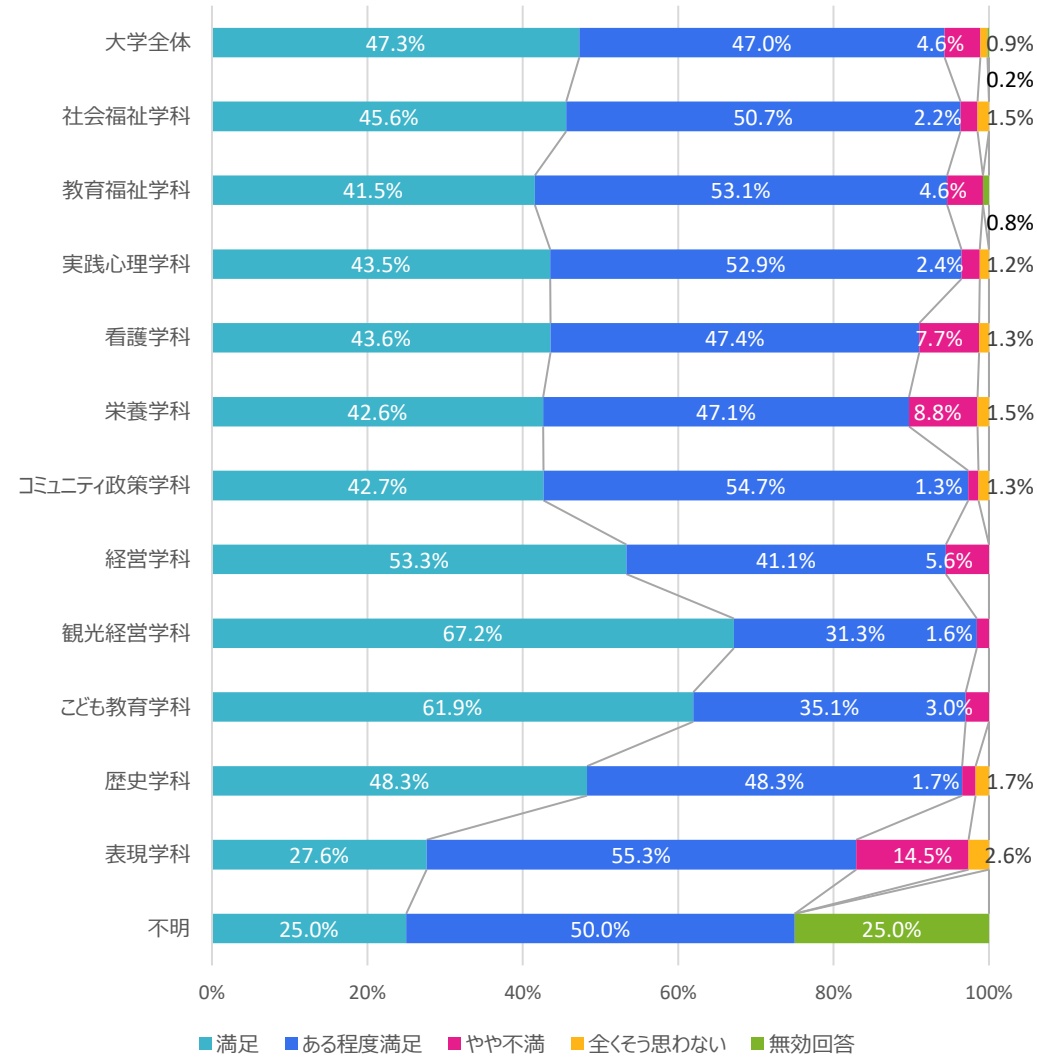


### 集計結果の分析

全設問で肯定率が95%を超え、学生が自身の成長を強く実感して卒業を迎えていることが分かります。特に専門知識の修得（Q10）とそれらを統合活用する力（Q15）は97%を上回り、理論が実践的スキルとして確実に定着しています。また、データ分析（Q11）や課題解決力（Q12）などの汎用的能力も高水準で、専門教育の深化が思考力や社会的責任（Q13）の向上にも寄与しています。自律的な学習習慣（Q14）も醸成されており、4年間の教育課程が学生の生涯学習力を養う場として結実した結果といえます。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

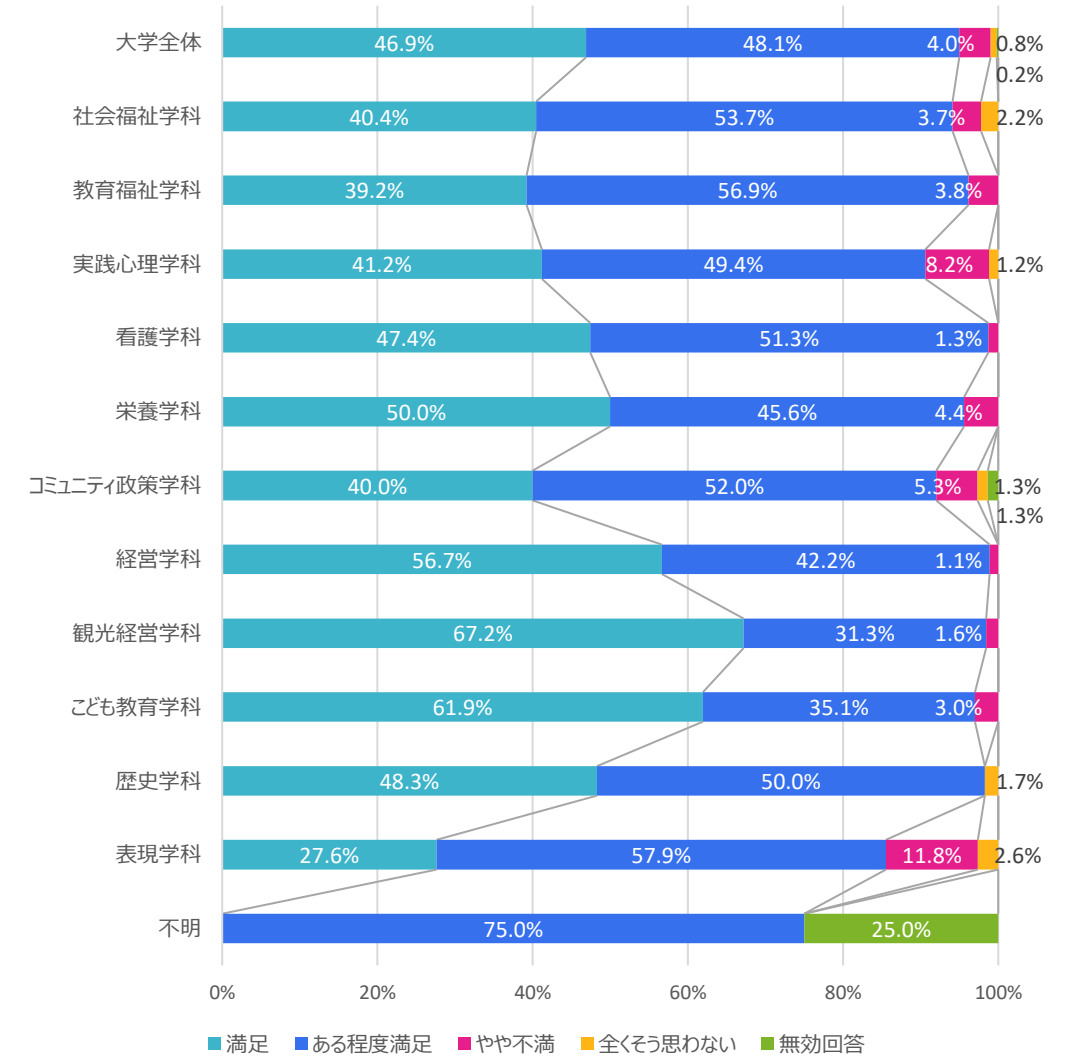
Q1.大学の満足度について



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を超えており、非常に高い数値となっています。観光経営学科やこども教育学科では、最高評価の「満足」が60%を超えており、非常に強い満足度が示されています。資格や専門職に直結する学科で評価が高い一方、表現学科は「やや不満」が14.5%と他学科より高く、学生の期待値と現状の間に一部で乖離が見受けられます。

Q2.基礎教育について

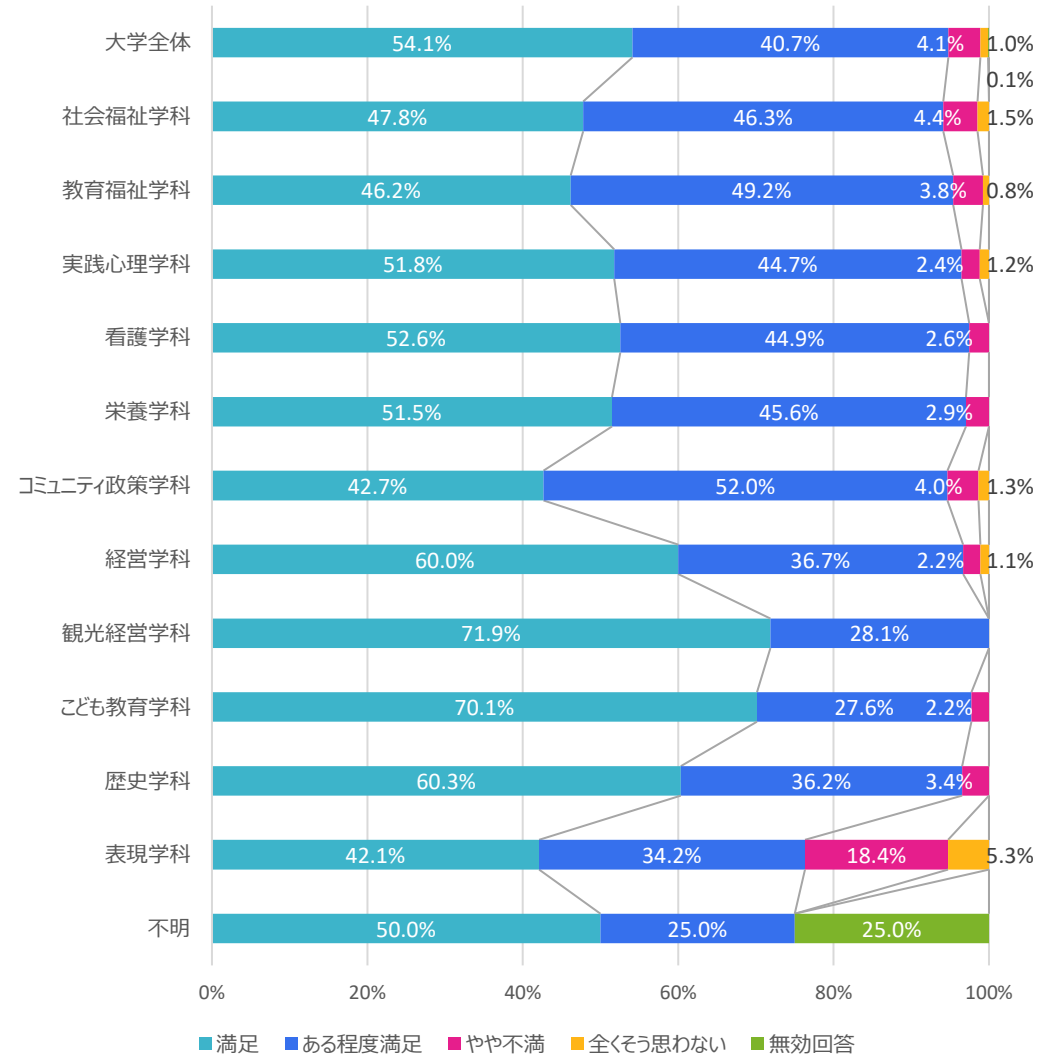


### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を超えています。特に看護学科や観光経営学科、歴史学科では98%近い肯定率となっており、導入教育が極めて高く評価されています。全学的に「ある程度満足」の比率が高く、安定した評価を得ています。観光経営学科は「満足」が67.2%と突出して高い数値です。実学系の学科で評価が高い傾向にあり、各学科の専門性に繋がる基礎知識の提供が、学生の納得感に大きく寄与していると推察されます。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

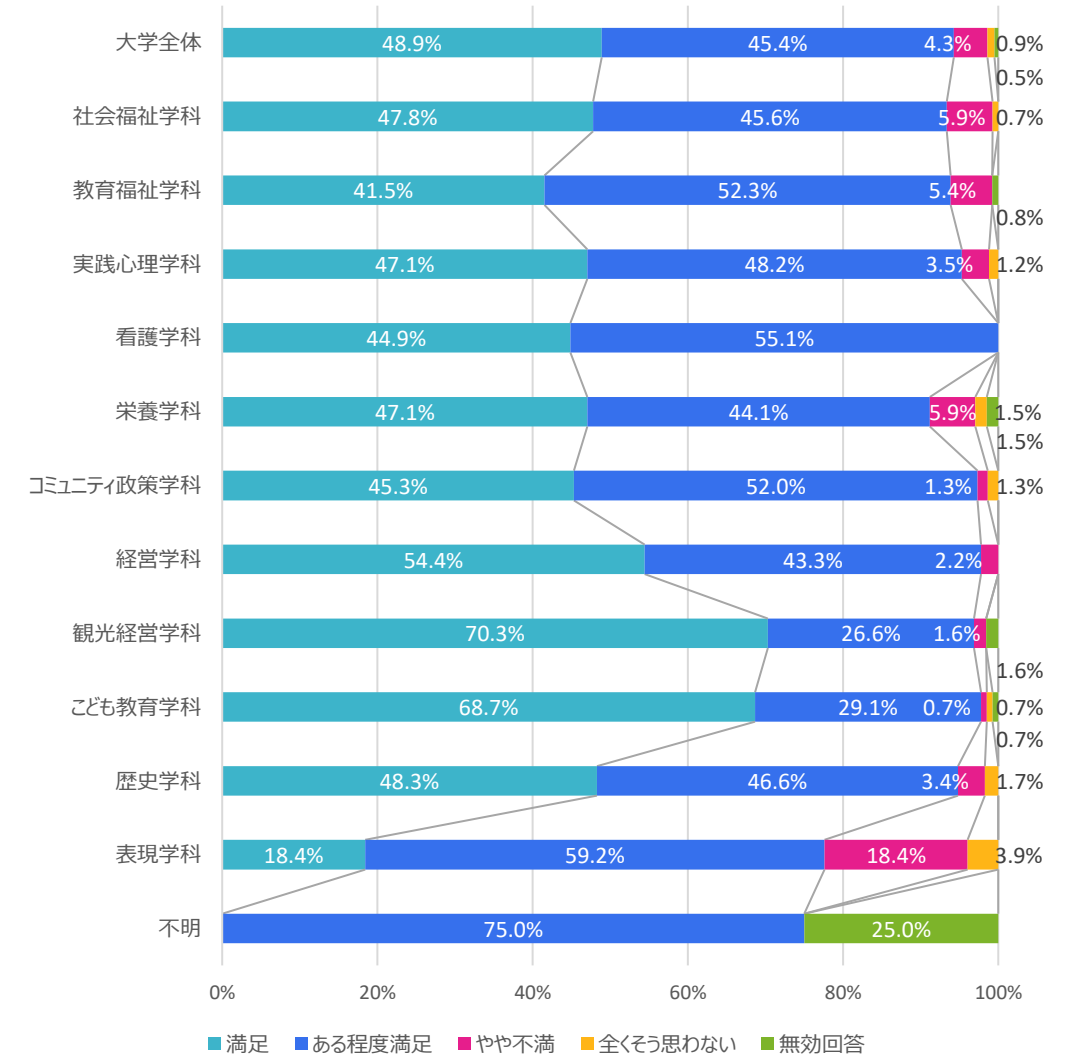
### Q3. 専門教育について



#### 集計結果の分析

ほとんどの学科で、肯定的回答の割合80%以上を維持しています。本学の教育の根幹として、学生から極めて高い信頼を得ています。多くの学科で「満足」を選択した学生が半数を超えており、専門的な学修内容に対する満足度が非常に高いことが伺えます。中でも観光経営学科とこども教育学科は「満足」を選択した学生の割合が70%以上と非常に多く、学科独自のカリキュラムの充実や教員の高い専門性が、学生にダイレクトに伝わっていると推測されます。

### Q4. 学習に関する支援について

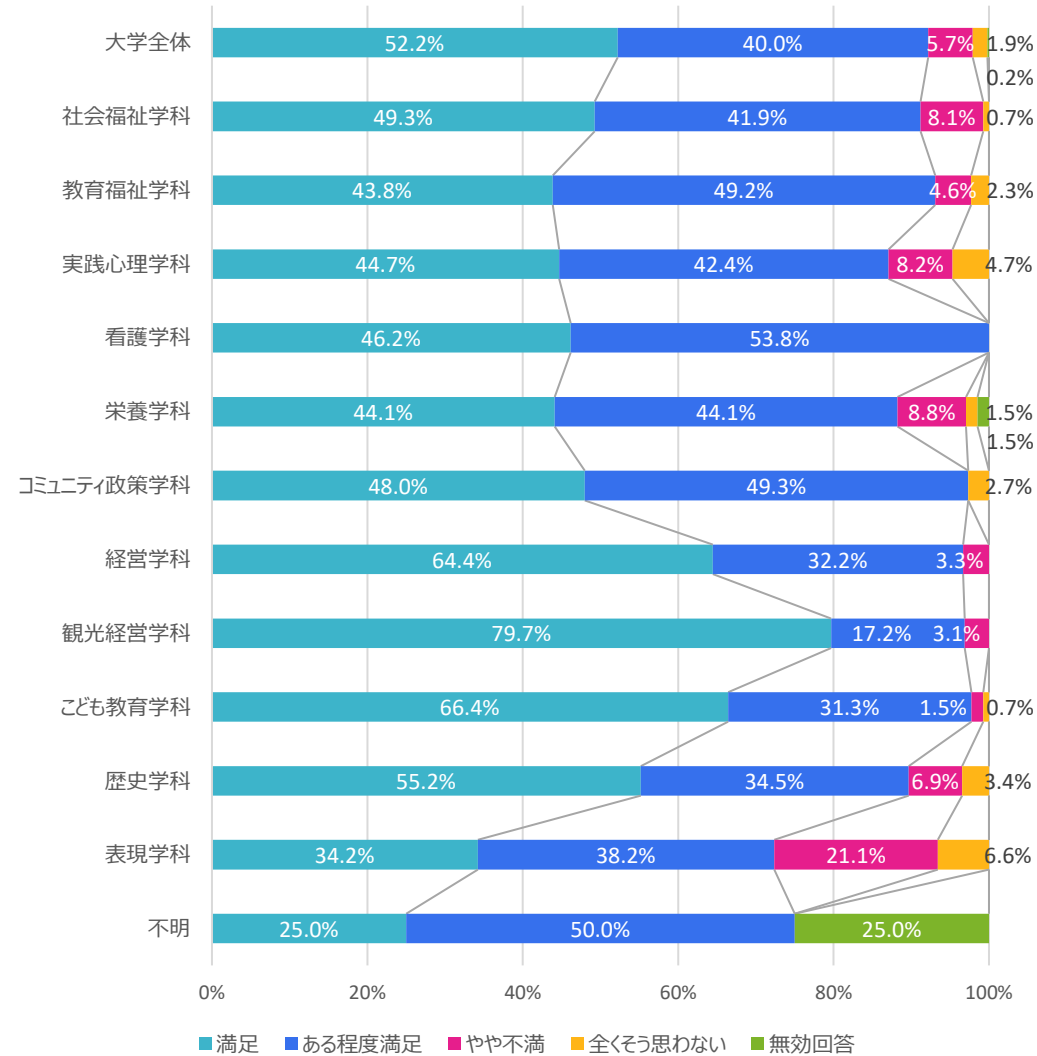


#### 集計結果の分析

ほとんどの学科で肯定的回答の割合が80%を達成しています。特に看護学科は肯定率100%となっています。表現学科（肯定率77.6%）を除き、ほぼ全ての学科が90%を超える高い水準にあり、学修環境の整備が奏功していると言えます。看護等の資格系学科では手厚い支援が評価される一方、表現学科では「やや不満」が18.4%と高く、より個別性の高いサポートへのニーズが推察されます。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

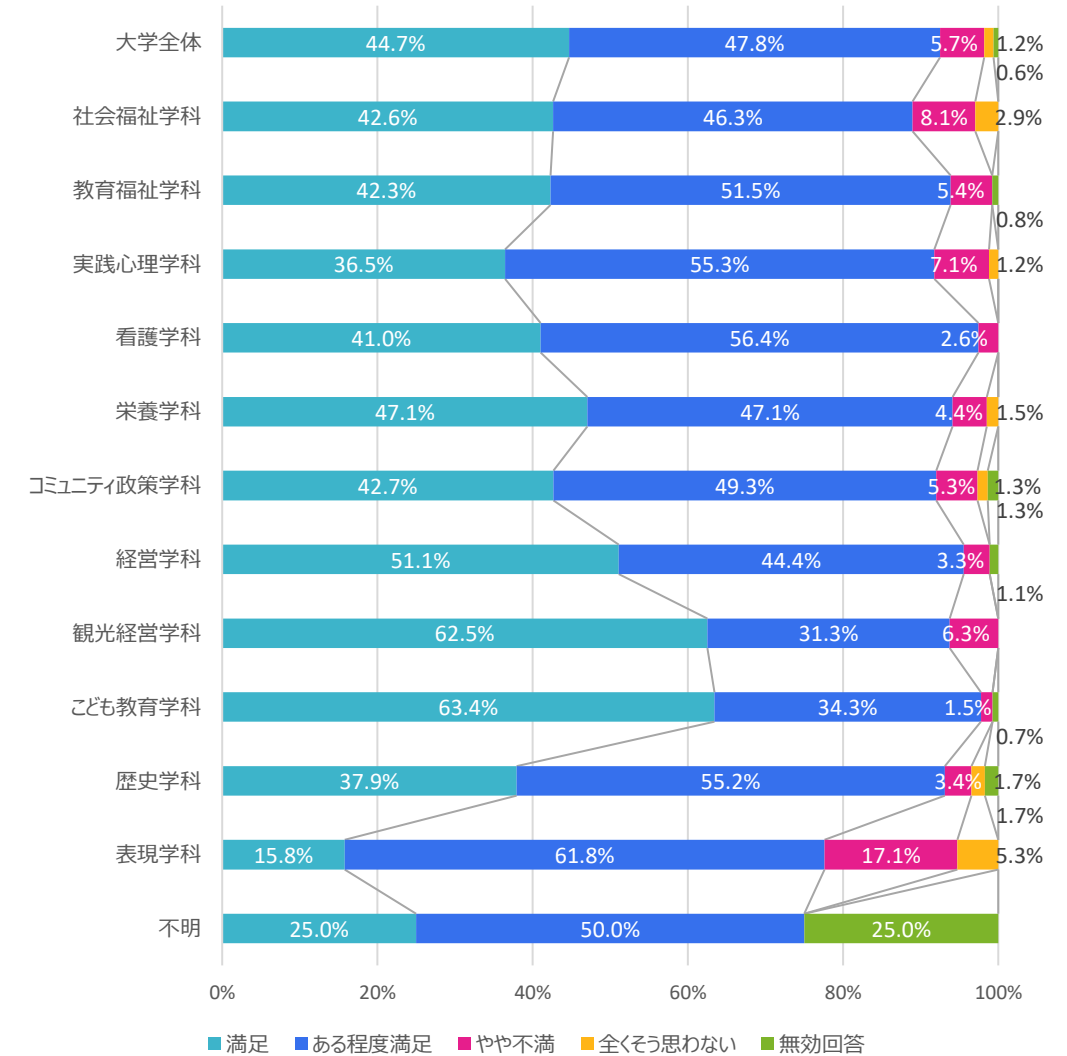
Q5.キャリア・就職支援プログラムについて



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が70～100%とばらつきのある結果となっています。特に看護学科やこども教育学科といった実学系学科で評価が非常に高いのが特徴です。観光経営学科は「満足」が79.7%と高い数値であり、支援が学生のニーズと合致していると考えられます。就職先が明確な学科ほど満足度が高い傾向にあります。対照的に、表現学科は「やや不満」と「全くそう思わない」の合計が27.7%に達しており、芸術分野特有のキャリア形成に対する不安が反映されているように見受けられます。

Q6.授業外の教育プログラムや正課外講座について

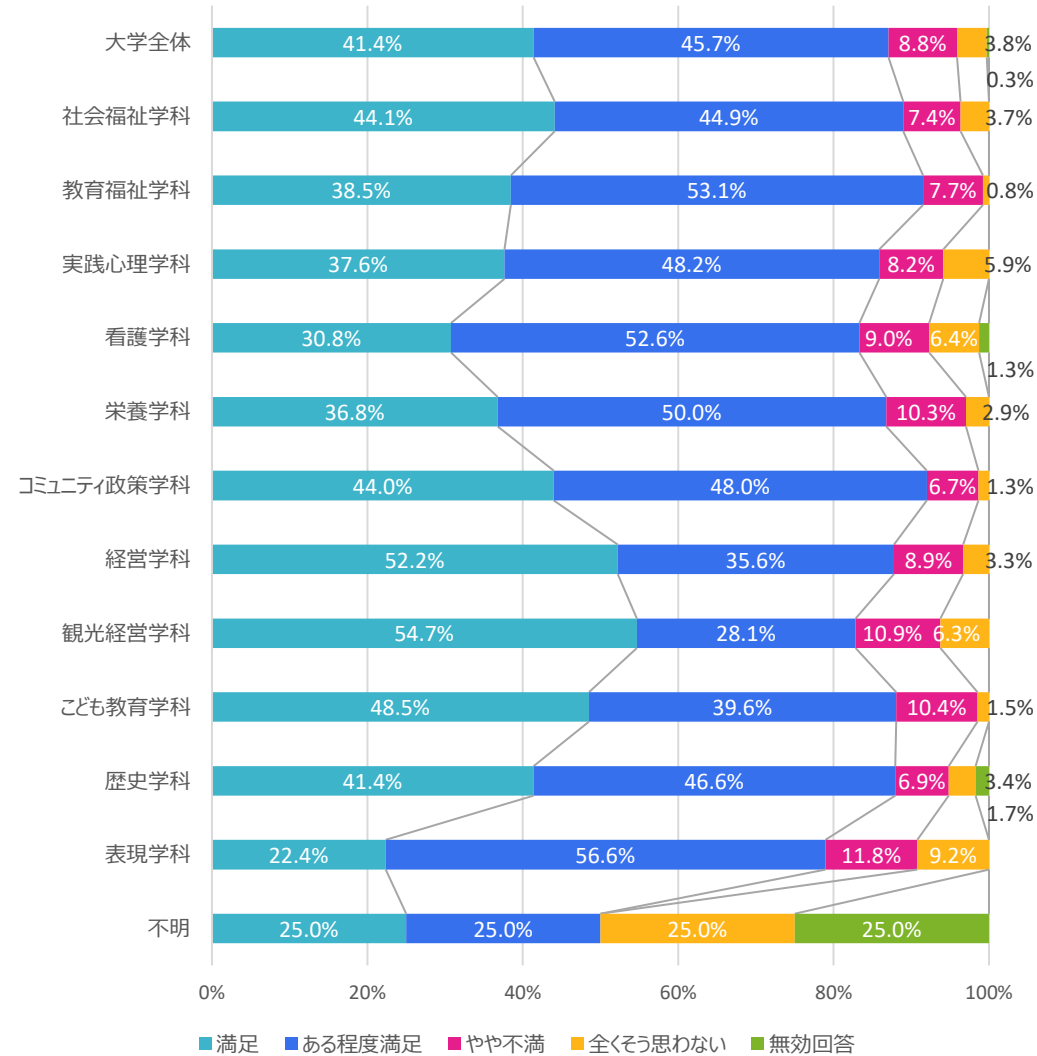


### 集計結果の分析

ほとんどの学科で肯定的回答の割合が80%を達成しています。こども教育学科や看護学科など、資格取得に関連するプログラムを持つ学科で特に高評価となっています。全体的に「ある程度満足」の割合が高い学科が多く、幅広い層の学生にプログラムが受容されている傾向にあります。観光経営学科やこども教育学科では「満足」が60%を超えており、学科独自の課外プログラムが全体の満足度を大きく押し上げているように見受けられます。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

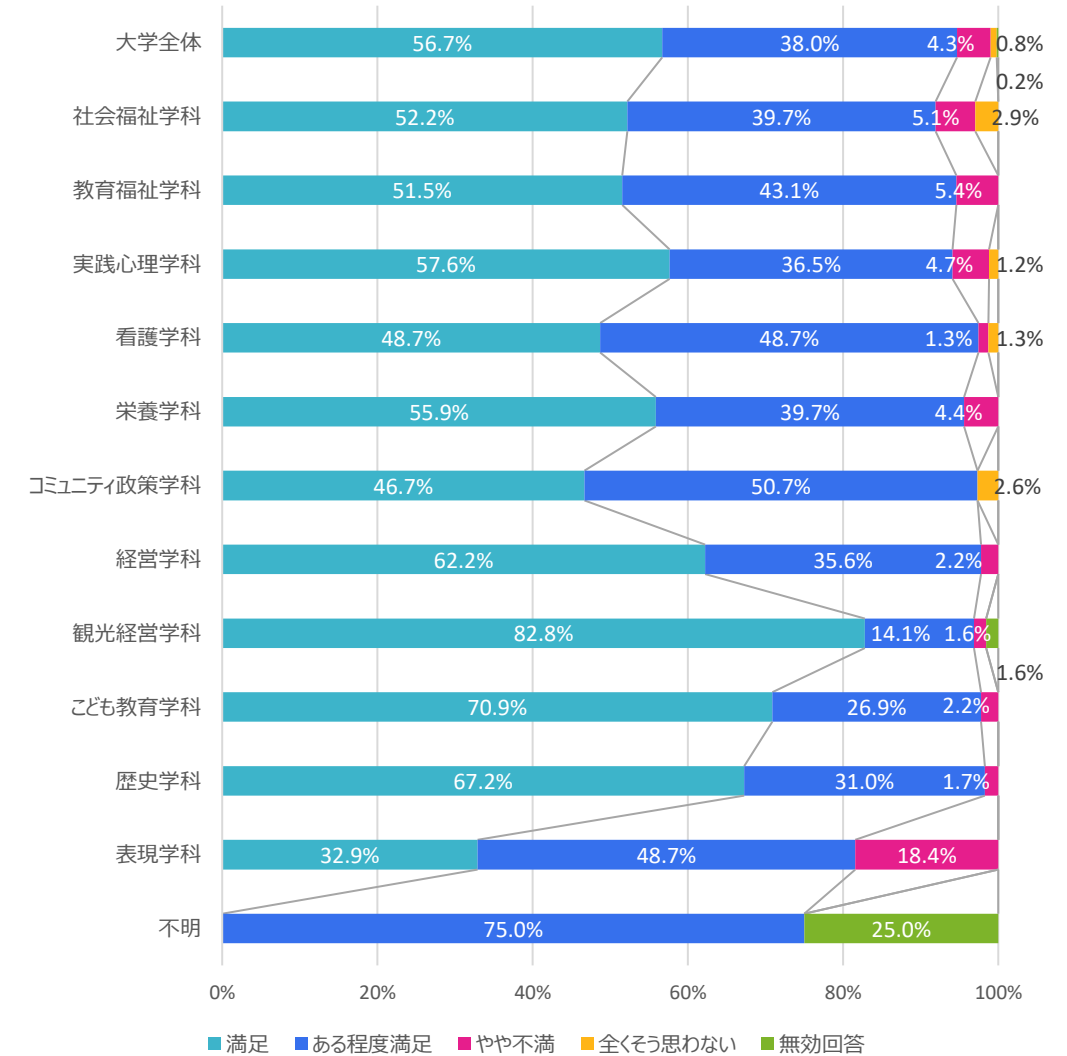
Q7.部活やサークルなどの課外活動について



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%程度にとどまっており、全設問の中で肯定率が最も低く、「ある程度満足」以下の回答が目立つ項目となっています。最高評価「満足」の割合が他の設問に比べて低く、全学的に学生の参画度や満足感に個人差が出やすい傾向が顕著です。表現学科や看護学科、栄養学科では「満足」の割合が低くなっており、学科の多忙さが課外活動への参加機会を制約しているという物理的な要因が推測されます。

Q8.教員の指導や対応について

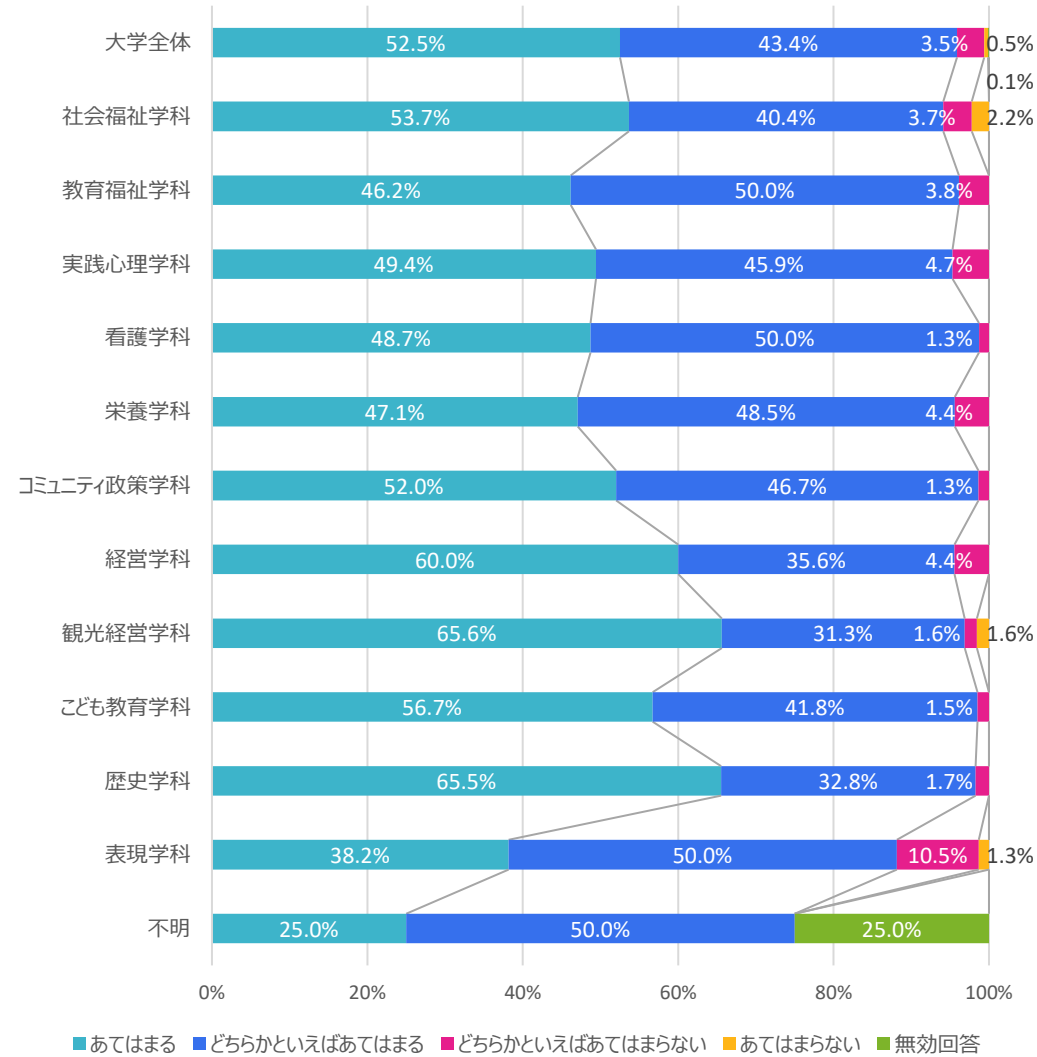


### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を大幅に達成しています。特にこども教育学科（肯定率97.8%）やコミュニティ政策学科（肯定率97.4%）、看護学科（肯定率97.4%）での評価は極めて高い水準です。全学的に「満足」の割合が非常に高く、教員と学生の距離の近さが本学の最大の強みであることが数値として明確に現れています。教員との接触頻度が高い少人数教育やゼミ活動が活発な学科ほど高い評価を得ています。表現学科の肯定的回答の割合の低さ（32.9%）は、今後の改善のヒントとなる箇所です。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

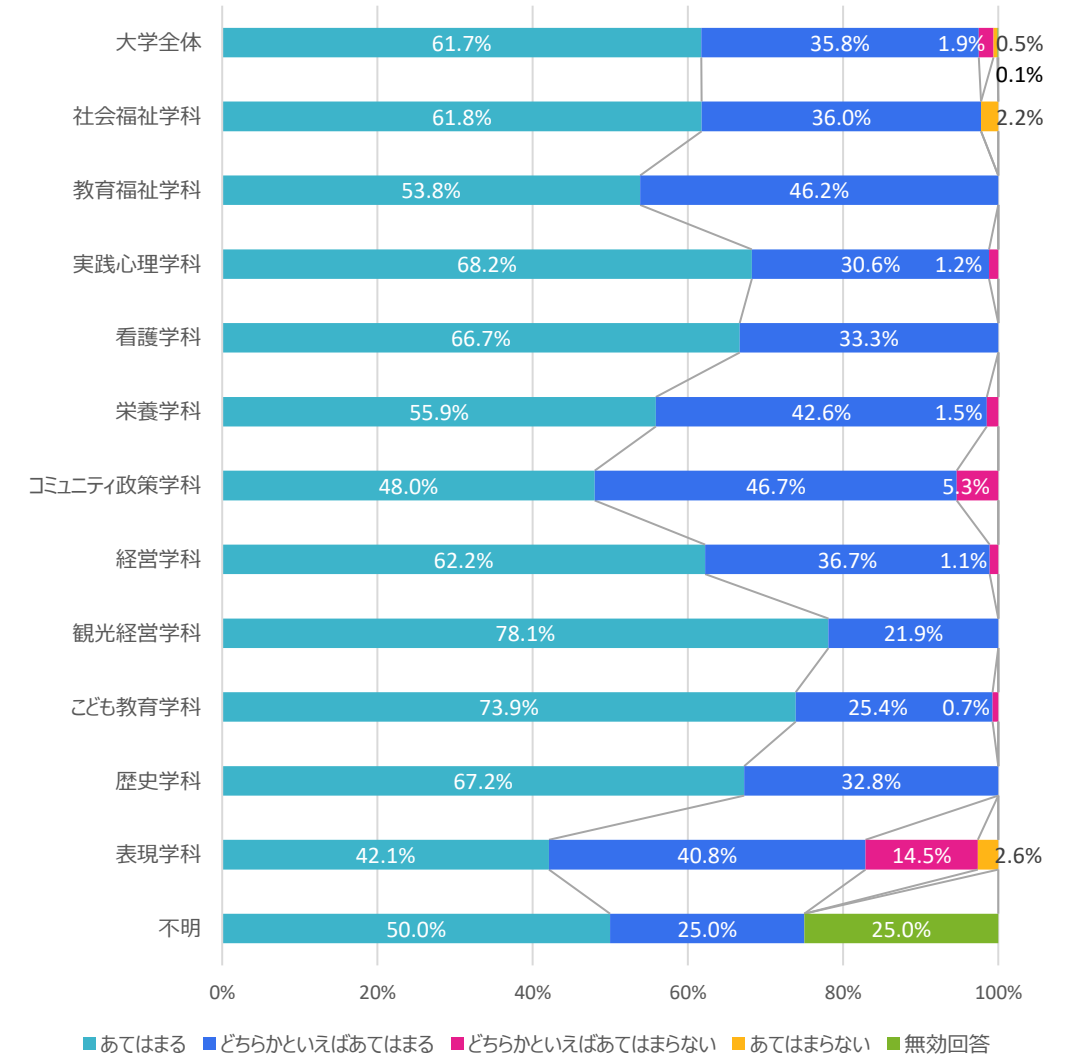
Q9. 人類の文化、社会と自然に関する知識（いわゆる一般的な教養）が増えた



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が85%を超える結果となっています。全学共通教育の成果が広く浸透していると言えます。観光経営学科や歴史学科、経営学科で「あてはまる」が60%を超えており、特定の専門分野のみならず、幅広い教養の習得が自己の成長実感に繋がっています。全学科で偏りなく高い数値が出ており、大学4年間を通じた教養教育が、学生の内面的な成長をしっかりと支えている様子が伺えます。

Q10. 専門分野に関する知識が身についた

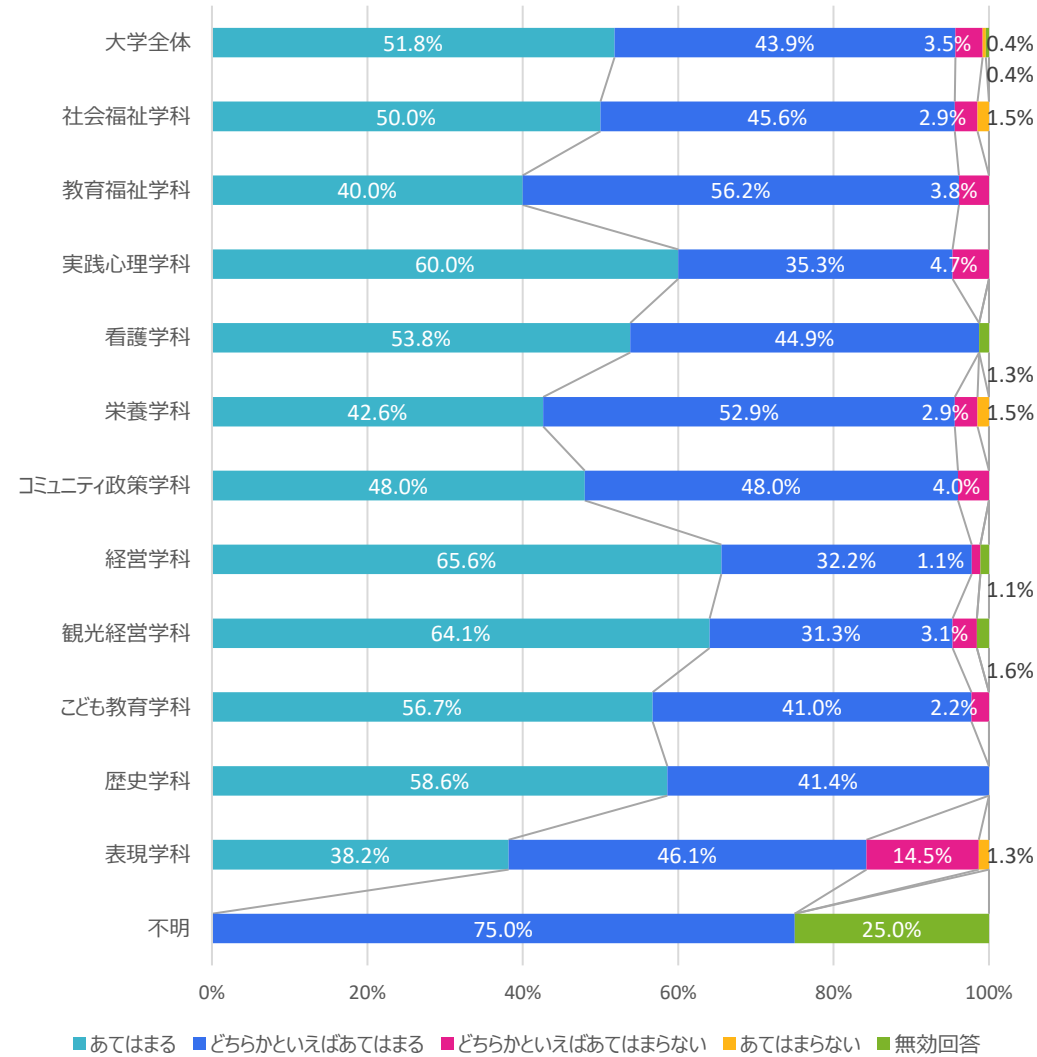


### 集計結果の分析

ほぼ全ての学科で肯定的回答の割合が95%を超えており、全学的な教育目標の達成を象徴しています。観光経営学科やこども教育学科のように最高評価「あてはまる」が70%以上の学科もあり、専門性への強い自信が伺えます。出口（職業）が明確な学科ほど数値が突出する傾向にあり、実践的なカリキュラムが、学生の実感に直結していると考えられます。対照的に、表現学科は「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」の合計が17.1%に達しており、芸術分野特有の技術の獲得優位のプログラム傾向が反映されています。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

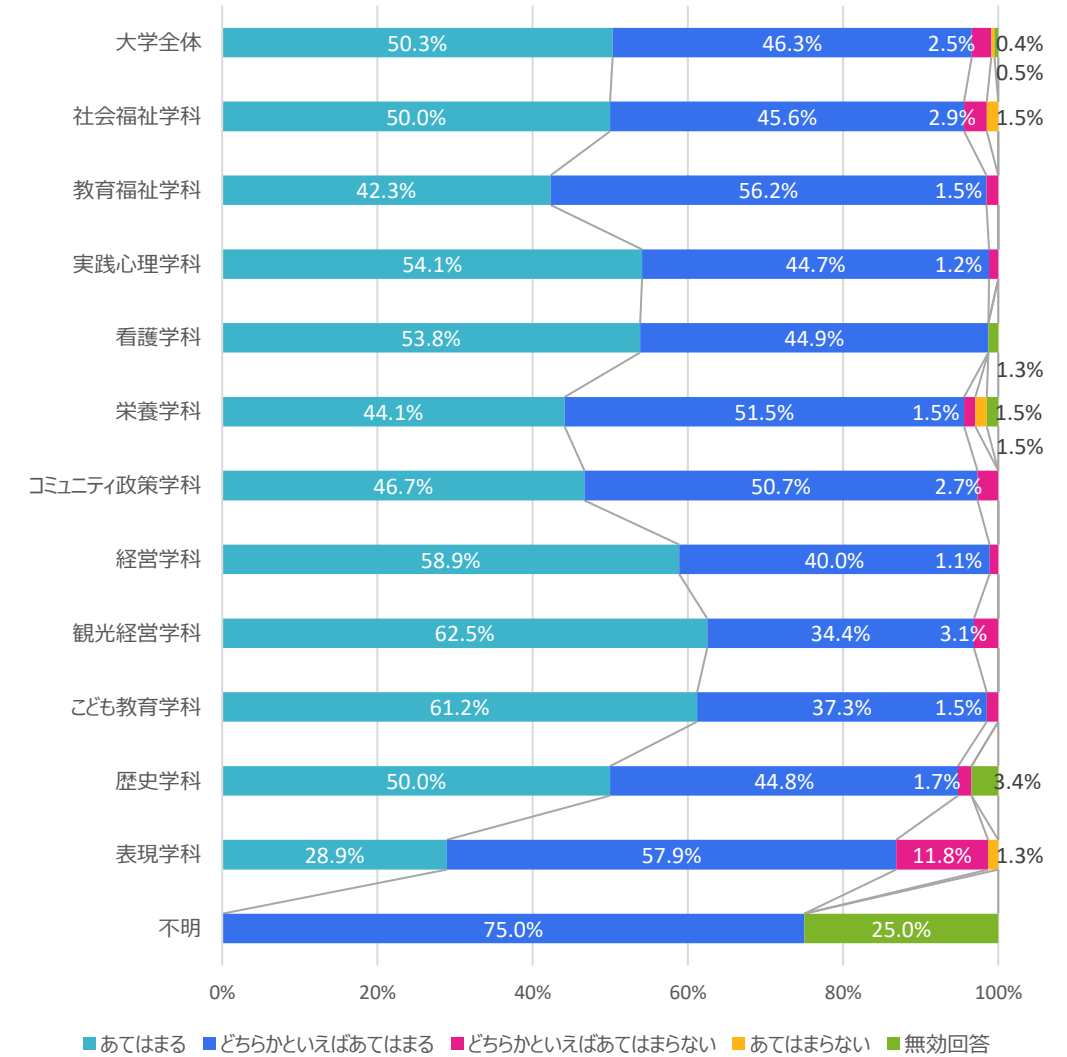
Q11. データや情報を収集・分析し、表現する力が増えた



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合80%を達成しています。特に経営学科やこども教育学科での評価が高く、専門教育との相乗効果が見られます。経営学科や観光経営学科、実践心理学科は「あてはまる」が60%に達しており、学科独自のデータ分析教育などの成果が、学生の能力実感として明確に現れています。調査や分析を伴う学科で特に高い一方、表現学科では他学科に比べ「どちらかといえばあてはまる」への回答集中が見られ、さらなる能力向上の余地が示唆されています。

Q12. 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力が増えた

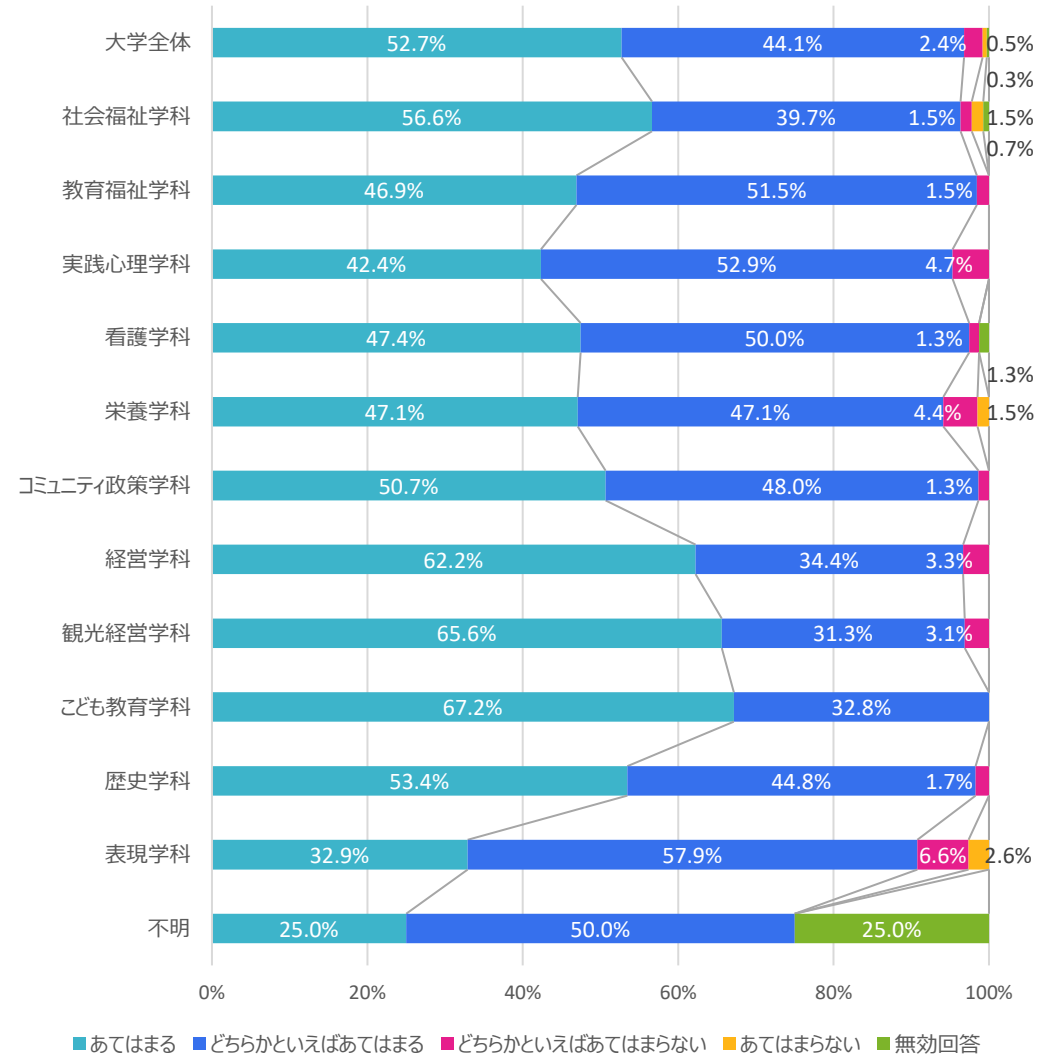


### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が85%を超えており、汎用的能力の育成が順調に進んでいると言えます。観光経営学科やこども教育学科で「あてはまる」が60%を超えており、現場実習やPBL（課題解決型学習）を通じて自信を深めた結果であると推察されます。表現学科（肯定率86.8%）を除き、概ね90%後半の肯定的回答割合となっており、全学的に問題解決スキルの育成が教育課程の中に定着しています。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

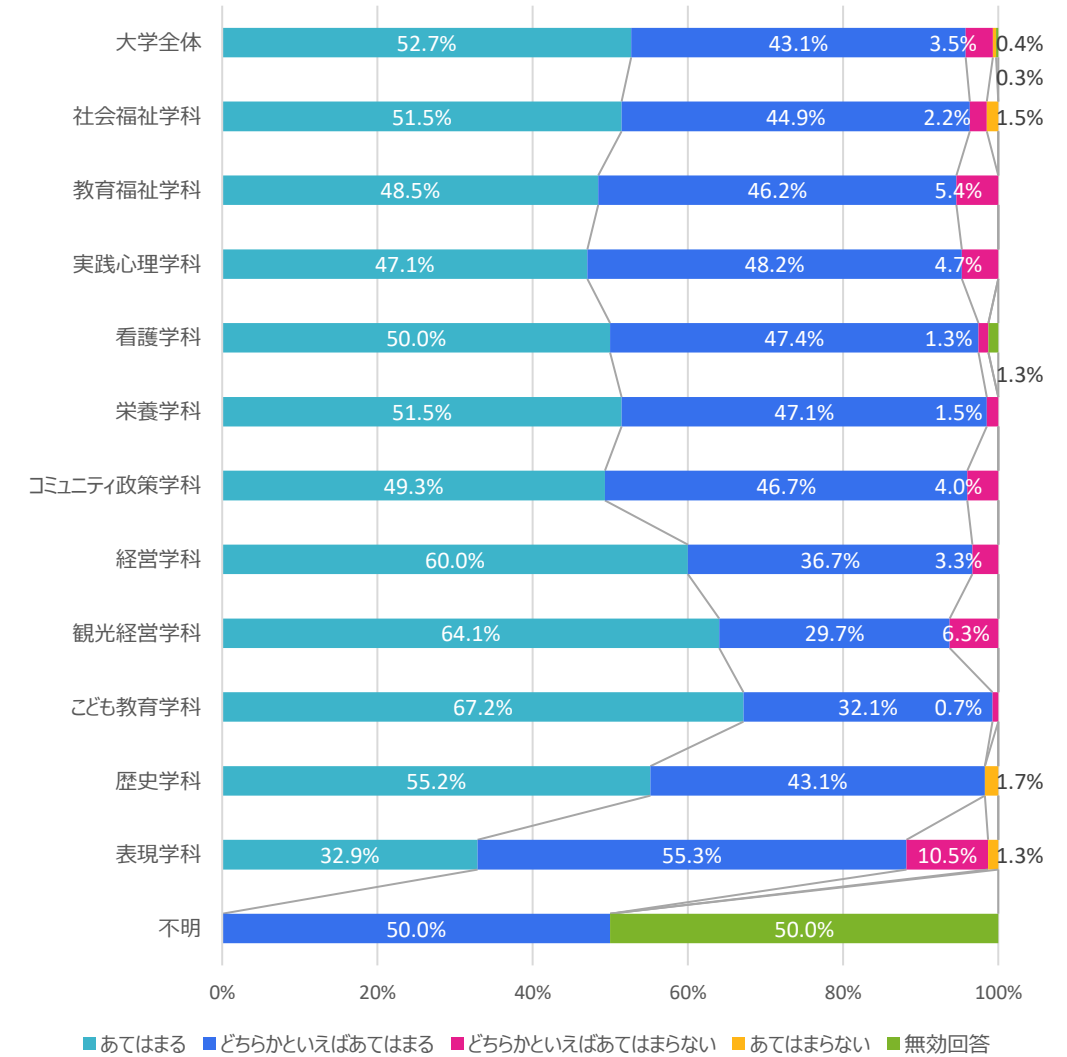
Q13. 社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力が増えた



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を大幅に達成しています。特にこども教育学科や教育福祉学科など、対人援助に関わる学科で極めて高い意識が醸成されています。こども教育学科の「あてはまる」が67.2%と高く、学科のアイデンティティである【社会への貢献】が学生の意識に強く根付いていることが分かります。こども教育学科や観光経営学科、経営学科では「あてはまる」が60%を超えており、社会との繋がりを重視した実学重視の教育が高い成果を上げています。

Q14. 卒業後も自ら学び続けることのできる習慣が身についた

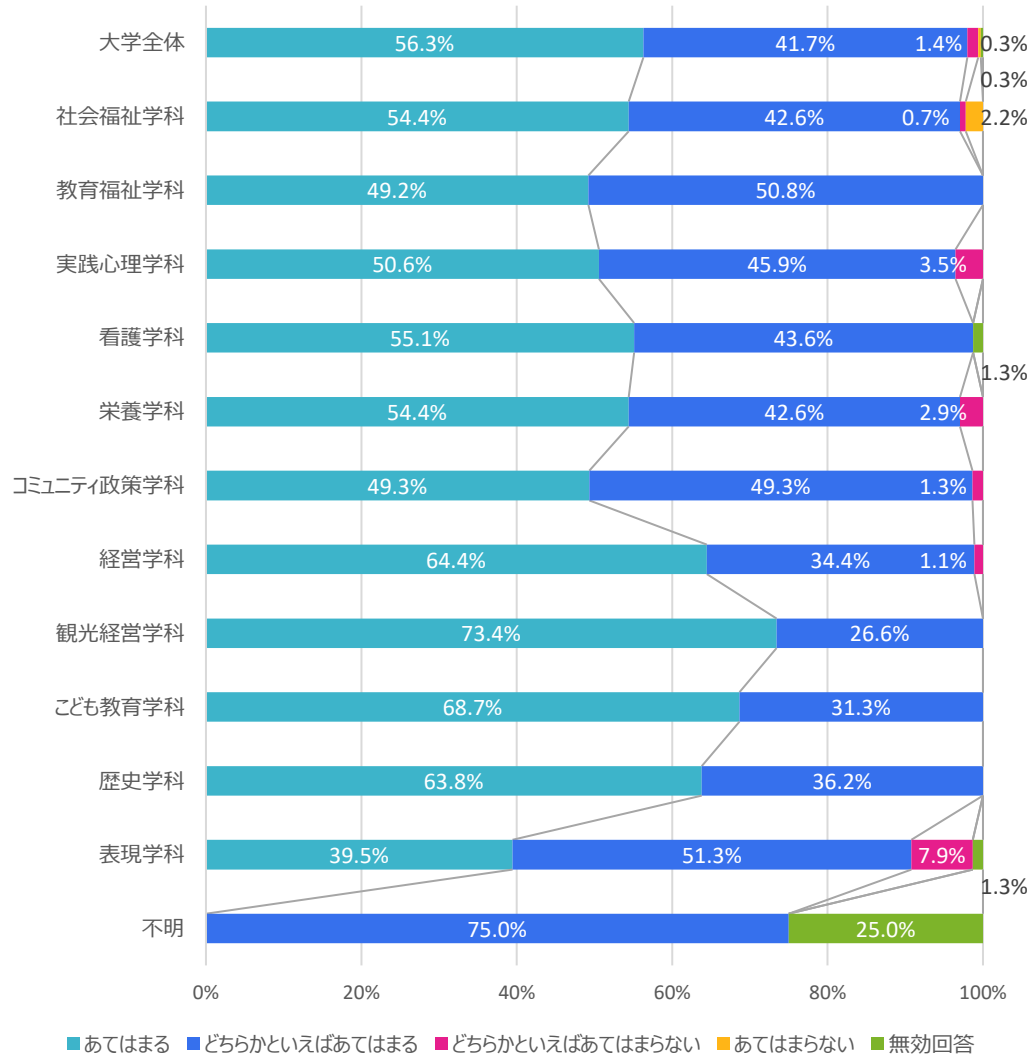


### 集計結果の分析

ほぼ全ての学科で肯定的回答の割合が90%を超えており、生涯学習の基盤形成に成功していると言えます。経営、観光、こども教育の各学科で「あてはまる」が60%を超えており、自律的な学習姿勢が卒業段階でしっかりと確立されています。表現学科は「どちらかといえばあてはまらない」が10.5%と他学科より高く、卒業後の不透明な環境に対して【学び続けること】への不安や迷いが一部に反映されている可能性があります。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

Q15.これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力が身についた

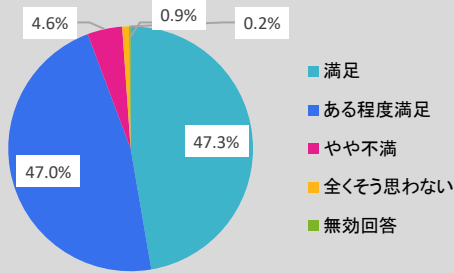


### 集計結果の分析

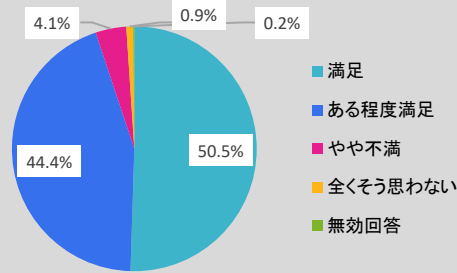
全学科で肯定回答の割合が90%以上となっています。4年間の集大成として、ほぼ全ての学生が自身の能力の統合を実感しています。観光経営学科の「あてはまる」が73.4%、こども教育学科が68.7%と非常に高く、卒業後の実践に向けた準備が十分に整っていることが示されています。全設問の中で最も「あてはまらない」の回答が少なく、本学の教育における最終的なアウトカム評価として、これ以上ない良好な結果であると評価できます。

## カテゴリ別：大学全体の回答結果【大学の満足度について】

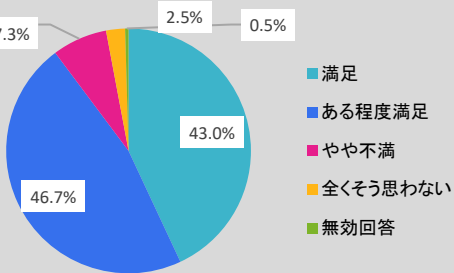
カテゴリ①：全体



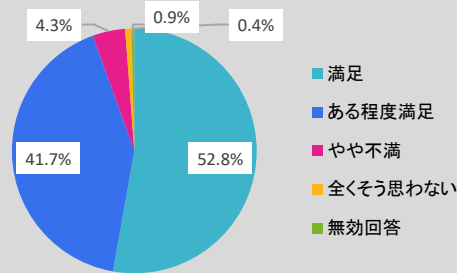
カテゴリ②：正課



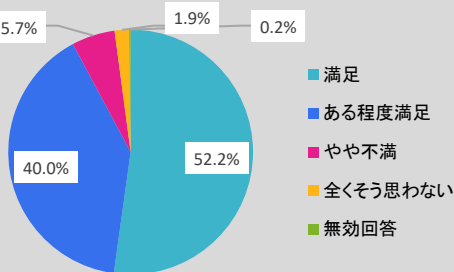
カテゴリ③：正課外



カテゴリ④：学修支援



カテゴリ⑤：キャリア支援



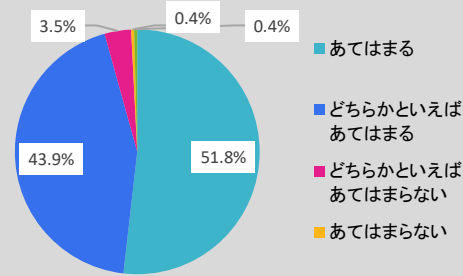
### 集計結果の分析

全カテゴリで肯定的回答の割合が80%を大きく超え、特に正課教育（カテゴリ②）や学修支援（カテゴリ④）は約95%と極めて高い満足度を維持しています。キャリア支援（カテゴリ⑤）も92%を超えており、大学の提供する主要なサービス全般が高い評価を得ていることが分かります。正課外（カテゴリ③）は89.7%と他よりは低いものの、目標は十分に達成しており、全学的に安定した教育環境が提供されています。全体満足度（カテゴリ①）は、コロナ禍等の影響や個人差が出やすい項目であり今後の課題として示唆されます。

## カテゴリ別：大学全体の回答結果【能力や知識の変化について】

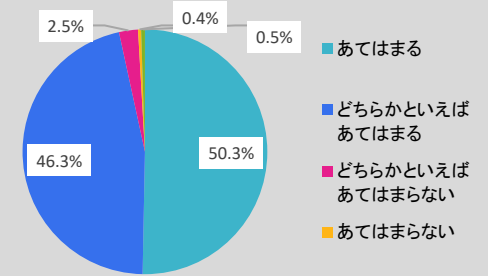
カテゴリB：DP[1]（2）

情報リテラシーや数論的スキルを修得している。



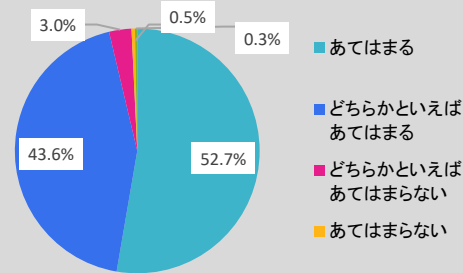
カテゴリC：DP[1]（3）

課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。



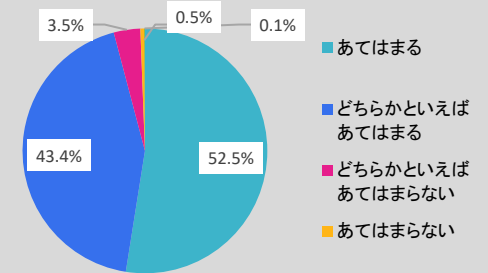
カテゴリD：DP[1]（4）

自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。



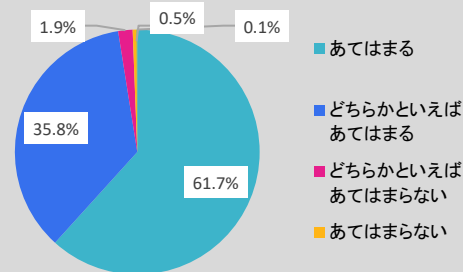
カテゴリE：DP[1]（5）

人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。



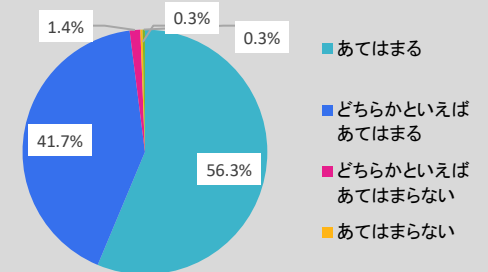
カテゴリF：DP[2]（1）

自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。



カテゴリG：DP[2]（2）

修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

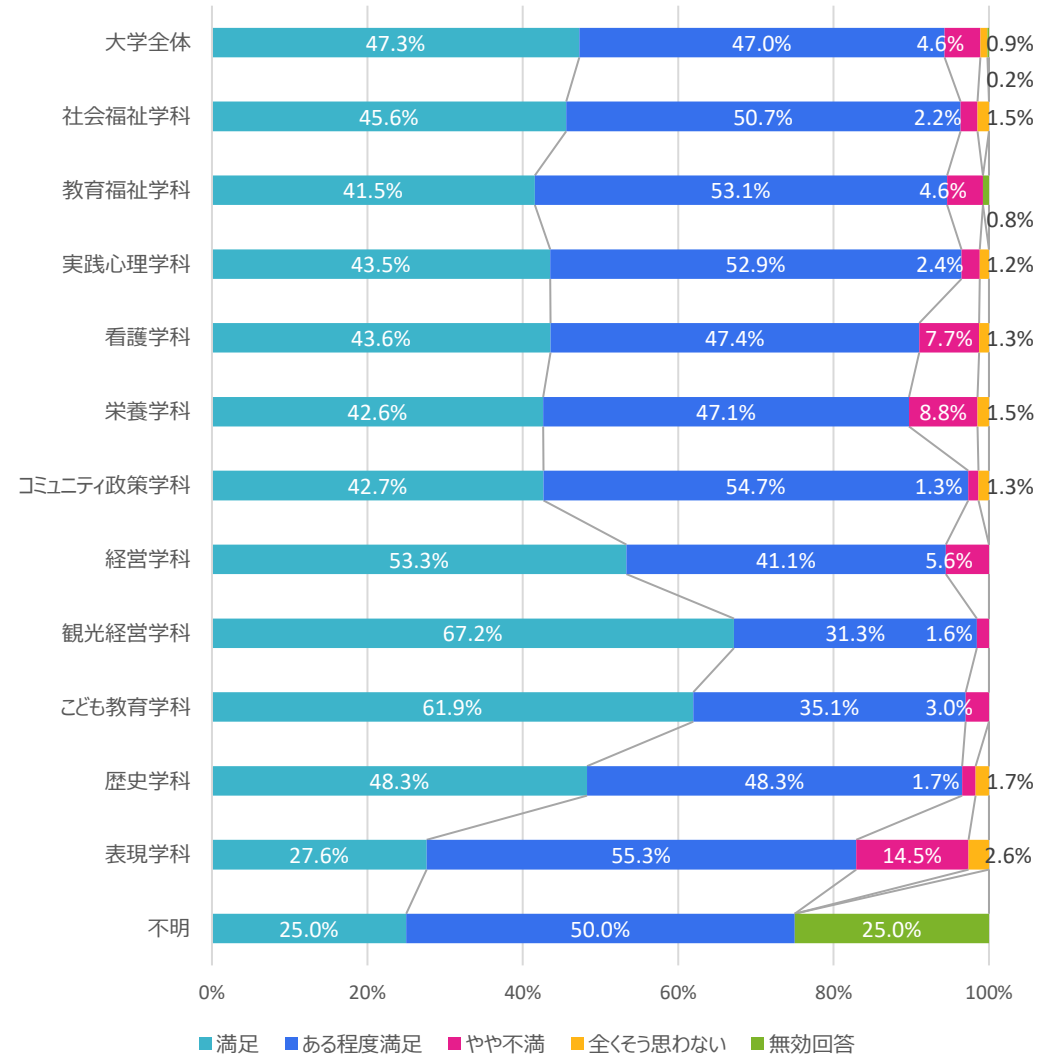


### 集計結果の分析

全DPカテゴリで肯定的回答の割合が95%～98%と極めて高く、確かな教育成果が得られています。特に専門知識（カテゴリF）と技能の活用（カテゴリG）は「あてはまる」の割合も突出しており、高度な専門性と自信の修得が伺えます。各能力がバランスよく高水準にあり、知識が実践的スキルへと確実に昇華されています。これはカリキュラムがDPIに沿って体系化され、学生が成長を実感できている証左です。教育プログラム全体が有効に機能している理想的な結果と言えるでしょう。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

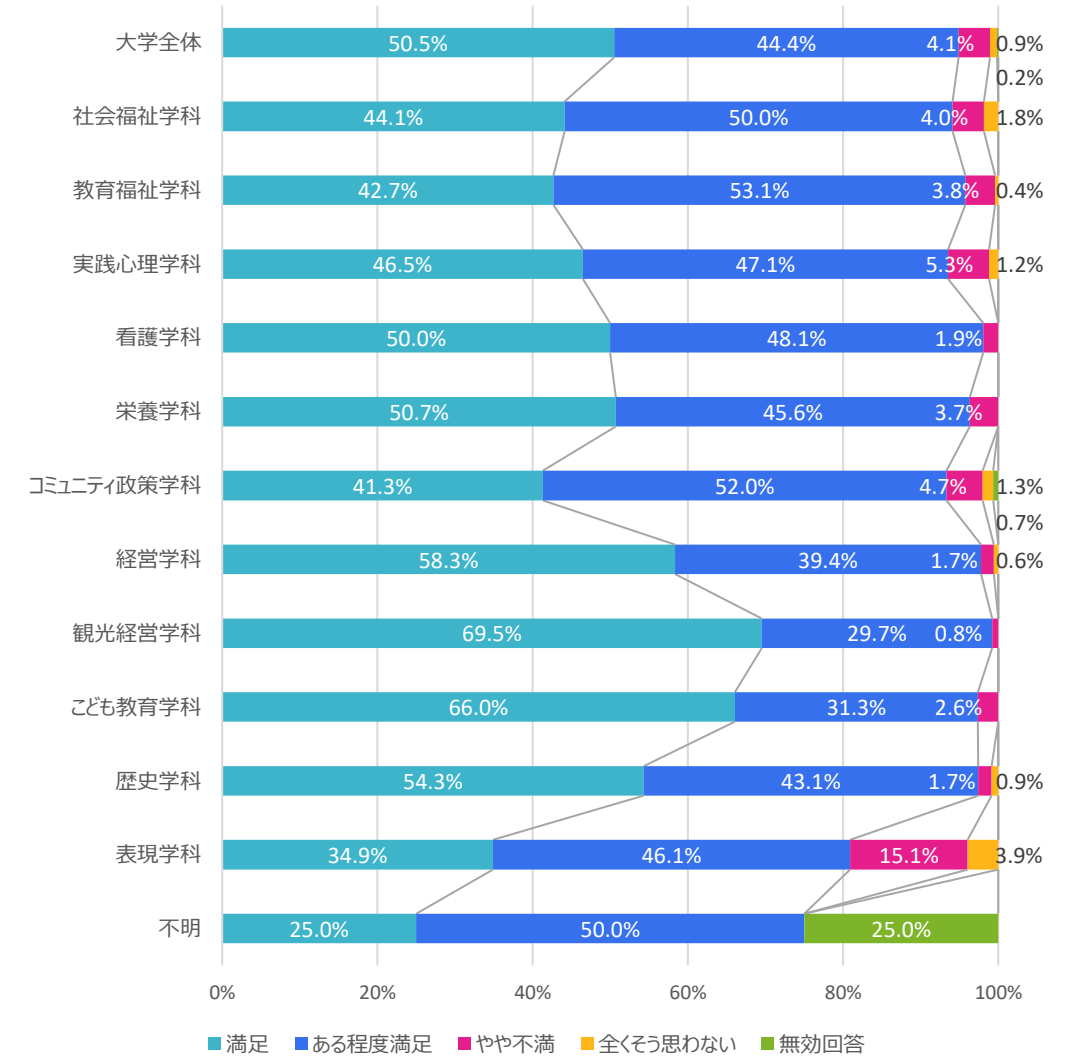
カテゴリ①：全体



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合80%以上を記録し、大半の学科が90%を超えるなど、目標を大きく上回る極めて良好な水準です。観光経営学科やこども教育学科では、最高評価である「満足」単独で60%を超えており、大学への強いロイヤルティが確認できます。資格取得や専門職に直結する学科群で評価が高い一方、表現学科は「やや不満」以下の割合がやや高く、入学前の期待値と現状の間に一定のギャップが存在する可能性が示唆されます。

カテゴリ②：正課

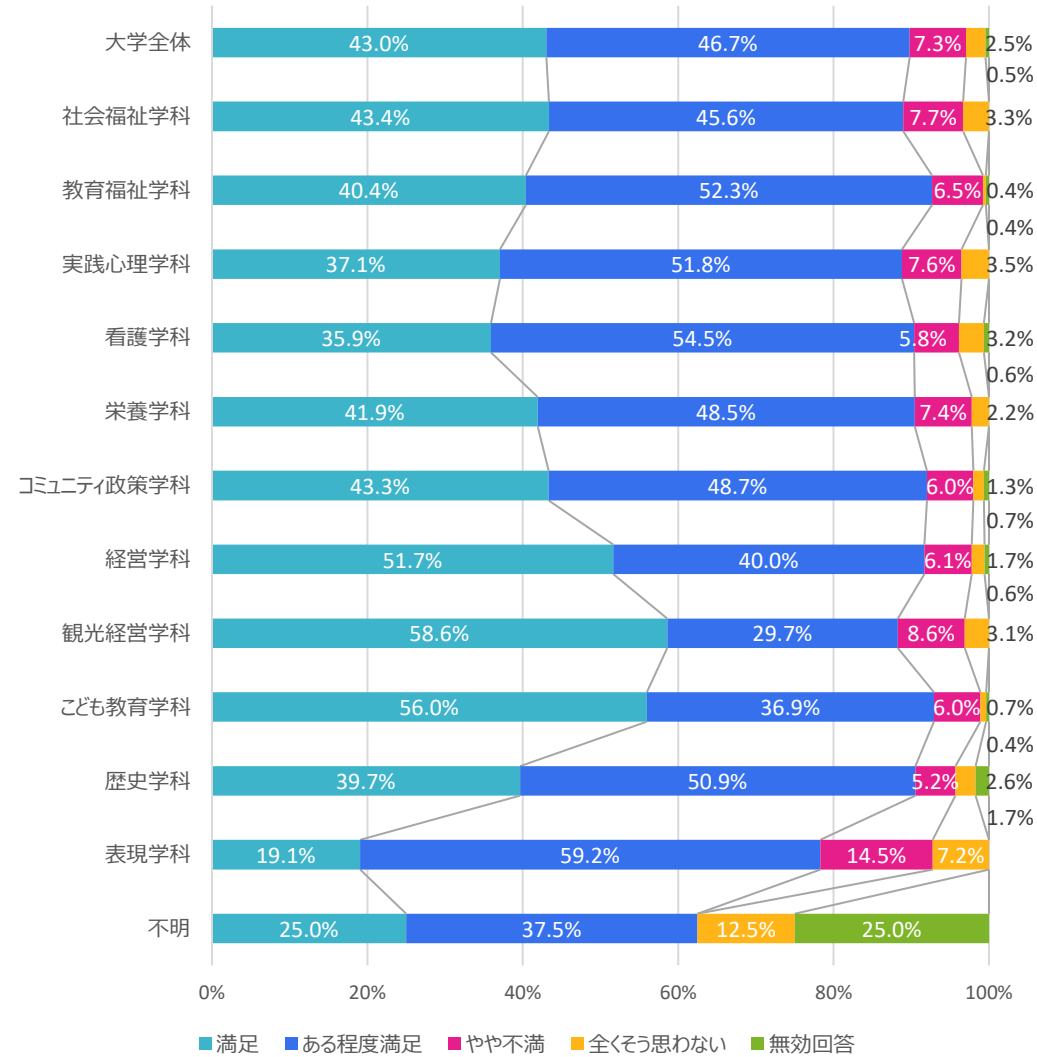


### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合80%を達成しており、本学の教育の根幹である基礎・専門教育が学生から強く支持されています。多くの学科で肯定率が90%を超え、特に歴史学科や観光経営学科では専門教育に対する「満足」の評価が際立って高い傾向にあります。出口を見据えた実学系学科や、独自の専門カリキュラムを持つ学科で納得感が高い反面、表現学科では、評価が厳しい傾向が見受けられます。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

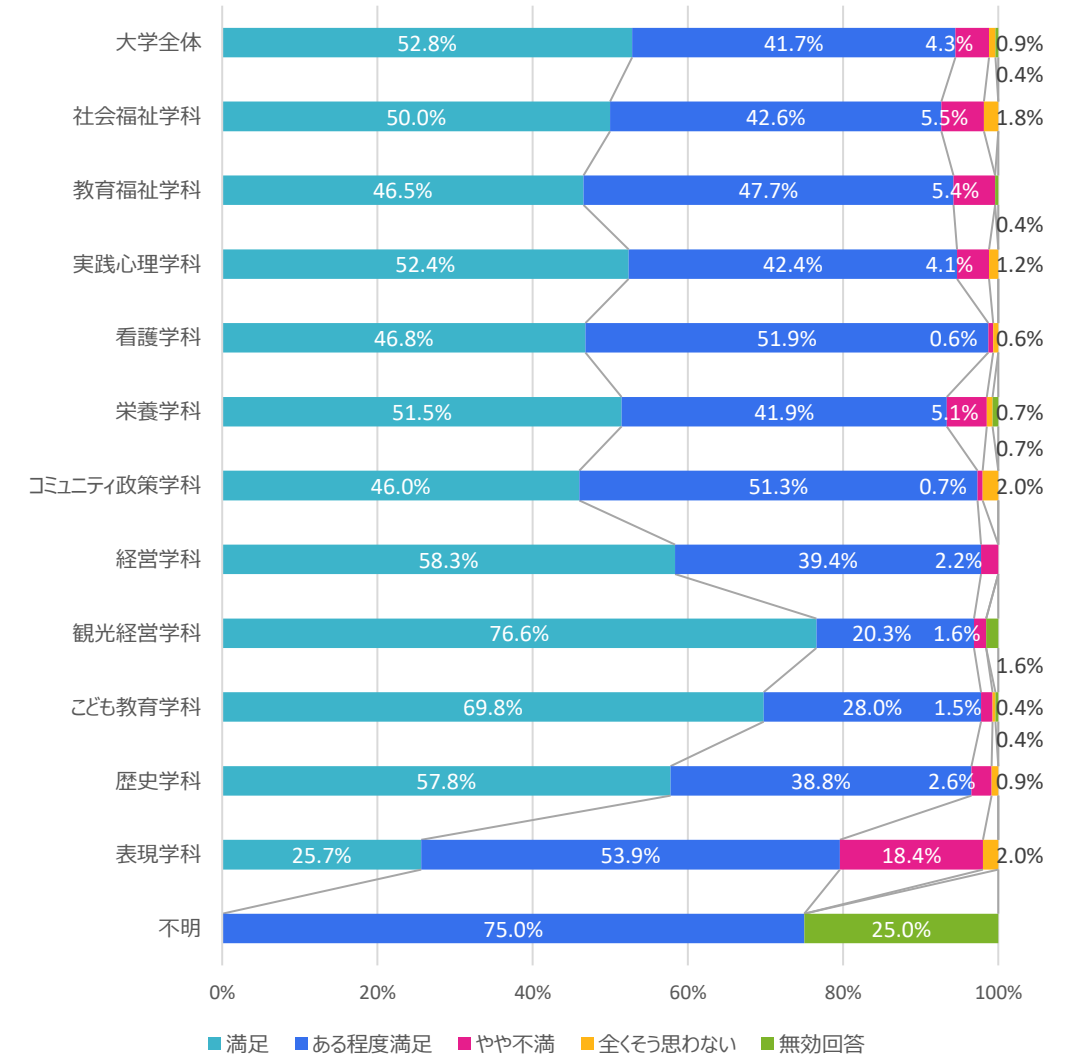
カテゴリ③：正課外



### 集計結果の分析

ほとんどの学科で肯定的回答の割合80%はクリアしているものの、他のカテゴリと比較すると全学的に最もスコアが伸び悩んでいる領域です。「ある程度満足」の割合が多くを占める一方で、「やや不満」や「全くそう思わない」の不満層が5～15%程度存在し、学生間で活動への参画度や満足感にばらつきが生じています。看護学科や栄養学科など実習・実験が過密な学科で肯定率が下がる傾向にあり、カリキュラムの多忙さが課外活動への参加を物理的に制約している要因が推察されます。

カテゴリ④：学修支援

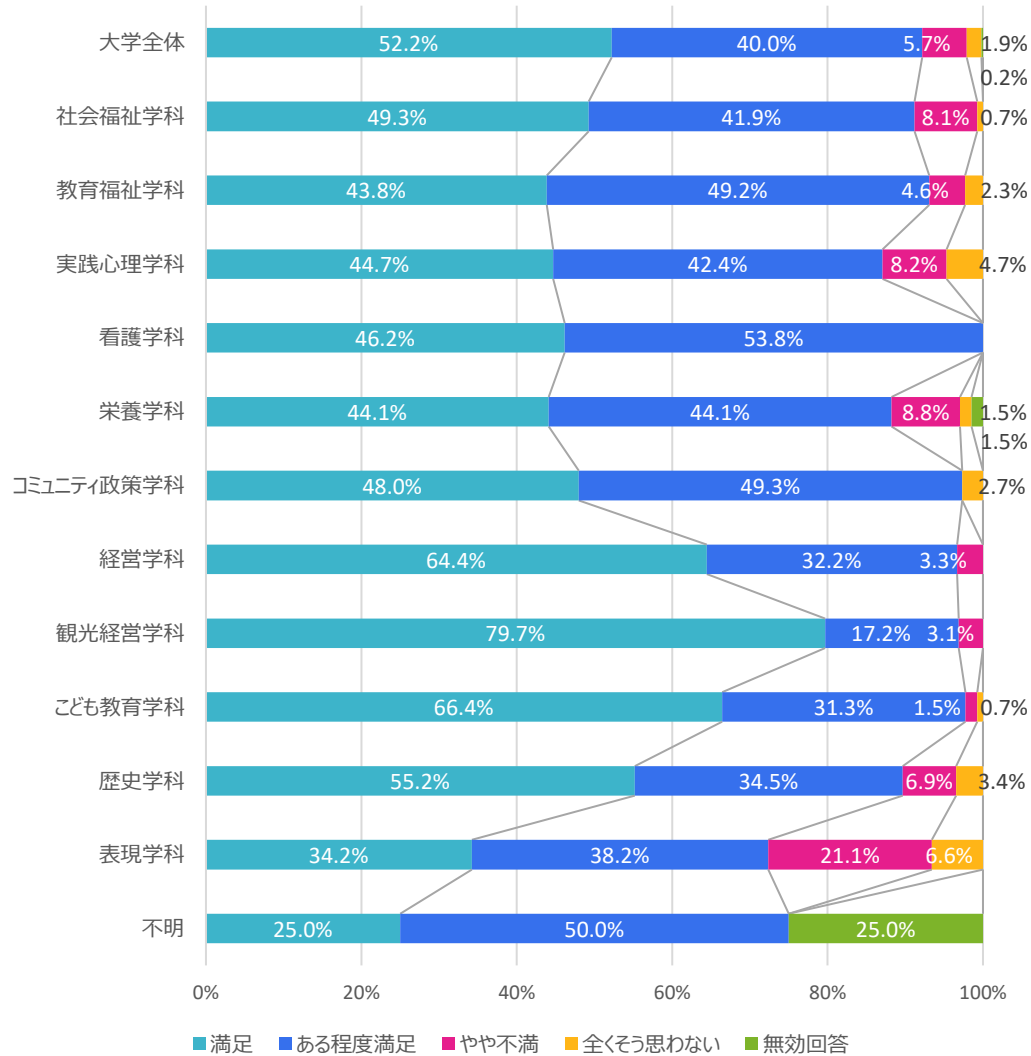


### 集計結果の分析

ほとんどの学科で肯定的回答の割合80%を達成しています。特に教員の指導・対応への極めて高い評価が、このカテゴリ全体の数値を強力に牽引しています。観光経営学科やこども教育学科をはじめ、全学的に「満足」の割合が非常に高く、教員と学生の距離の近さが本学最大の強みとして数値に表れています。少数教育やゼミが機能している学科ほど評価が高く、表現学科の学習支援における評価の伸び悩みは、より個別最適化されたサポートへのニーズを示しています。

## 大学全体と学科の比較【大学の満足度について】

カテゴリ⑤：キャリア支援



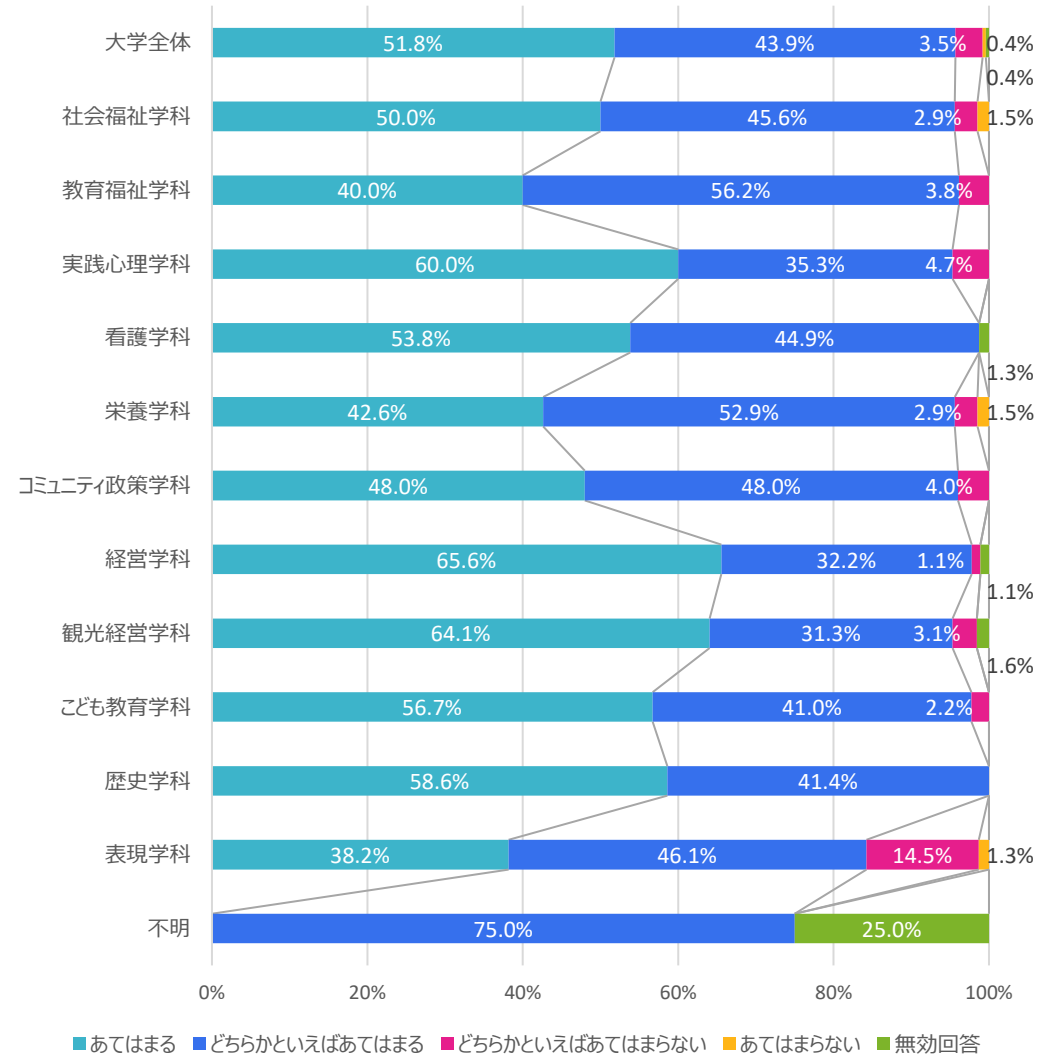
### 集計結果の分析

ほとんどの学科で肯定的回答の割合80%をクリアしています。特に実学系・資格系の学科において、支援体制への評価が非常に高いのが特徴です。観光経営学科では「満足」が79.7%と高い数値を記録しており、業界に特化した支援プログラムが学生のニーズと完全に合致しています。進路が明確な学科ほど満足度が高くなる傾向にあり、対照的に表現学科ではキャリア形成への不安が数値に反映されているため、早期からの個別フォローが求められます。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

カテゴリB : DP【1】 (2)

情報リテラシーや数量的スキルを修得している。

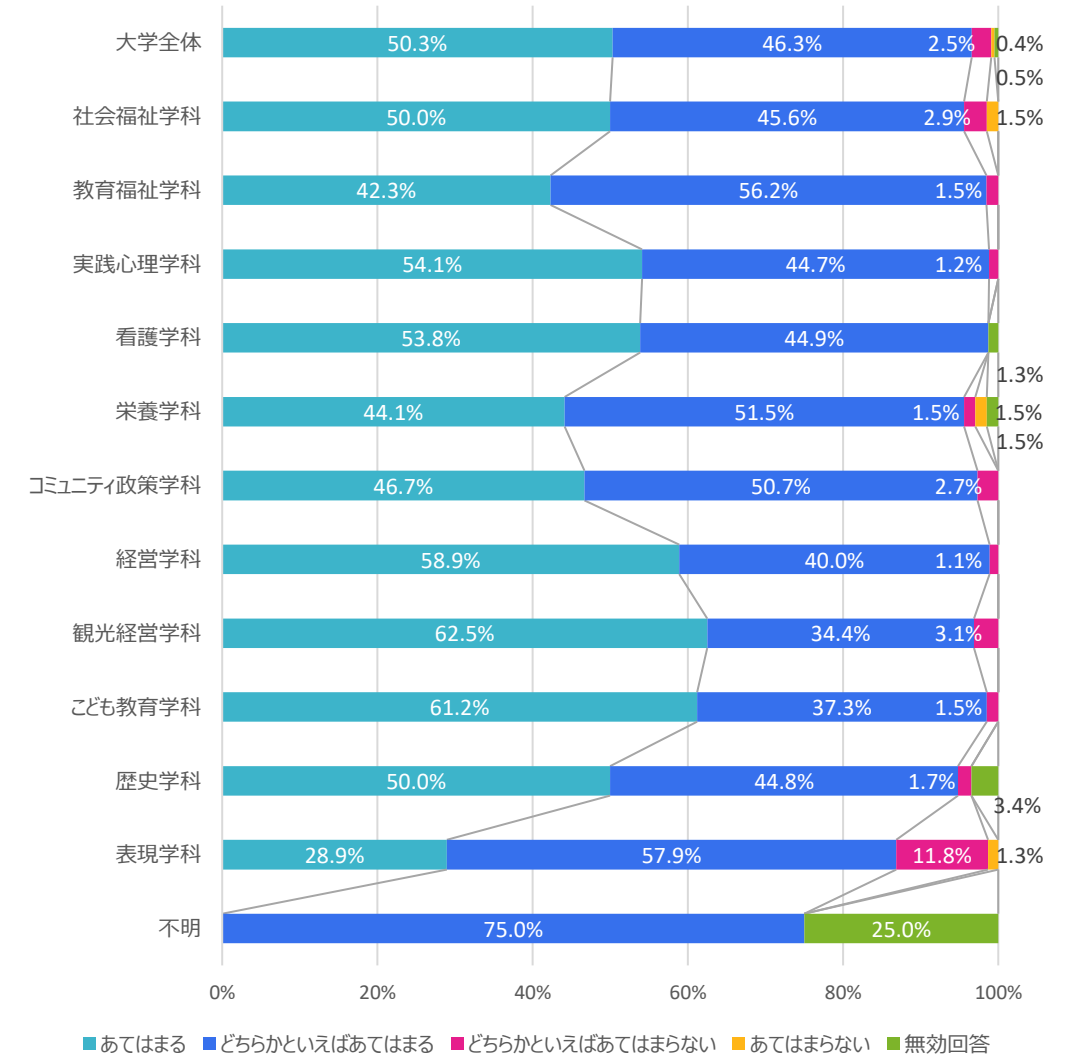


### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を達成しています。特に歴史学科や看護学科での評価が高く、専門カリキュラムとの相乗効果が発揮されています。経営学科や観光経営学科、実践心理学科は「あてはまる」単独で60%に達しており、データ分析や実験等の反復を通じた能力向上が、学生自身に強く自覚されています。定量的な調査・分析を伴う学科で評価が高い一方、表現学科では「どちらかといえばあてはまる」への回答集中が見られ、表現技法のアウトプットに対するさらなる自信醸成が課題となります。

カテゴリC : DP【1】 (3)

課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。



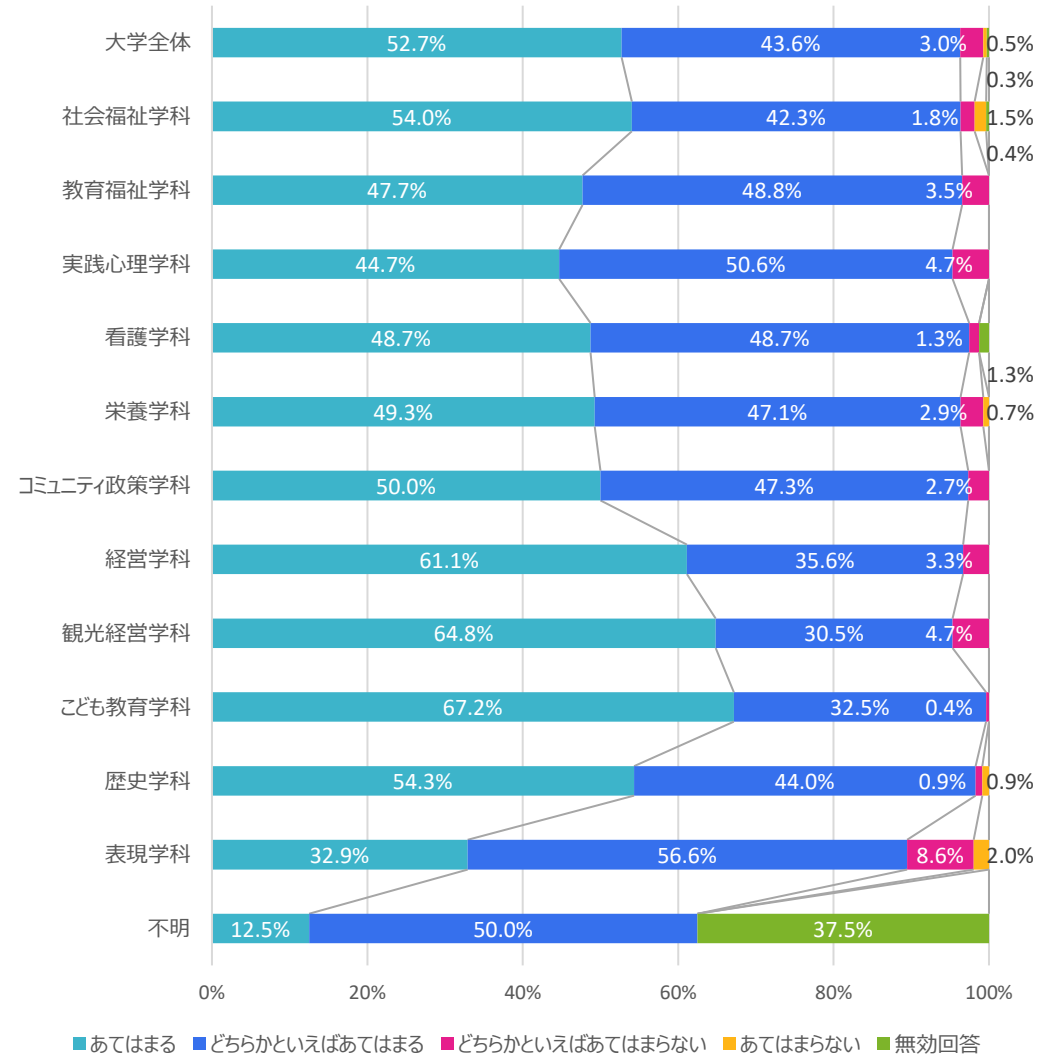
### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を達成しています。汎用的な問題解決スキルが、全学的に高い水準で育成されていることが確認できます。こども教育学科や観光経営学科で「あてはまる」が60%を超え、現場での実習やPBL（課題解決型学習）の経験が、実践的な自信へと繋がっています。学科の特性を問わず概ね90%後半の肯定率を維持しており、受け身の学習ではなく、自ら考えて行動する教育スタイルが全学的に定着している証左です。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

カテゴリD：DP【1】（4）

自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。

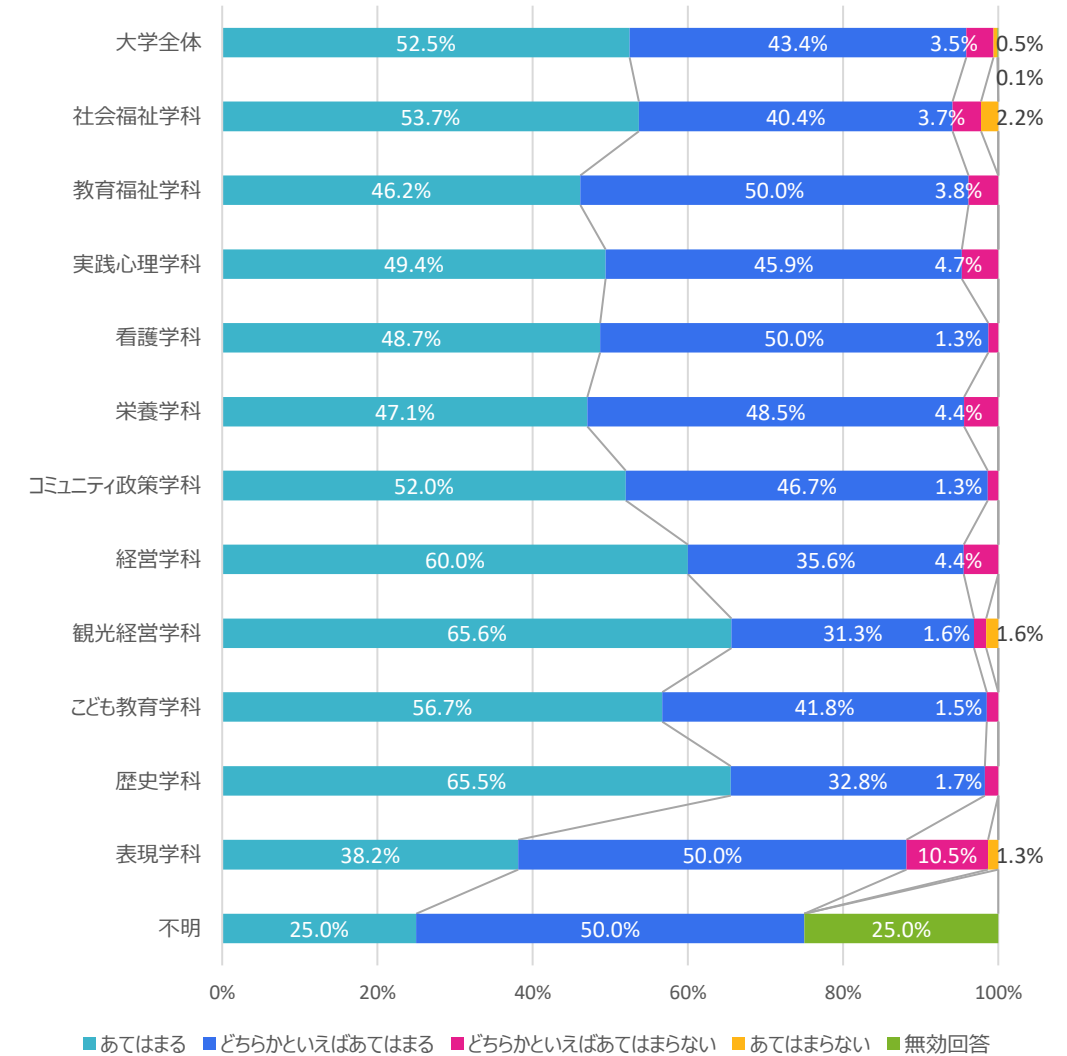


### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が80%を大幅に達成しています。生涯学習の基盤となる自律性と、社会と関わる意識の双方が高く育まれています。社会福祉学科やこども教育学科では、学科のアイデンティティである【対人・社会貢献】の意識が強く根付いており、「あてはまる」の比率が高くなっています。経営学科や観光経営学科でも非常に高い評価を得ており、実社会との接点を持つ教育機会が、卒業後の学びの意欲向上に大きく貢献しています。

カテゴリE：DP【1】（5）

人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。



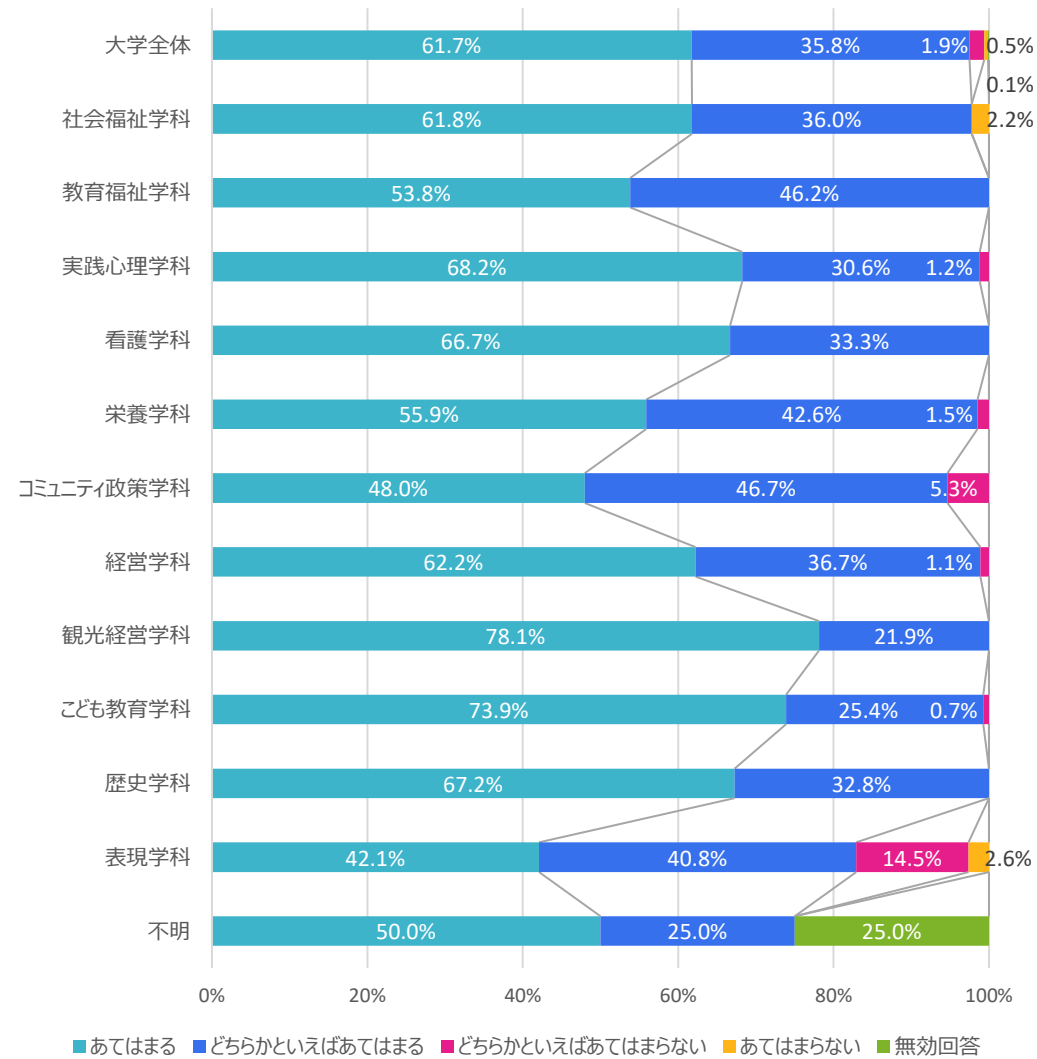
### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が85%以上を記録し、目標を大幅に達成しています。全学共通教育の成果が各学科の学生に広く浸透しています。観光経営学科や歴史学科などで「あてはまる」が60%を超えており、専門教育だけでなく、幅広い視野と教養の習得が成長実感へと繋がっています。学科間の数値のばらつきが比較的小なく、全学共通のカリキュラムが、どの専門分野に進む学生にとっても有用な基盤として機能していると言えます。

## 大学全体と学科の比較【能力や知識の変化について】

カテゴリ：DP【2】（1）

自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。

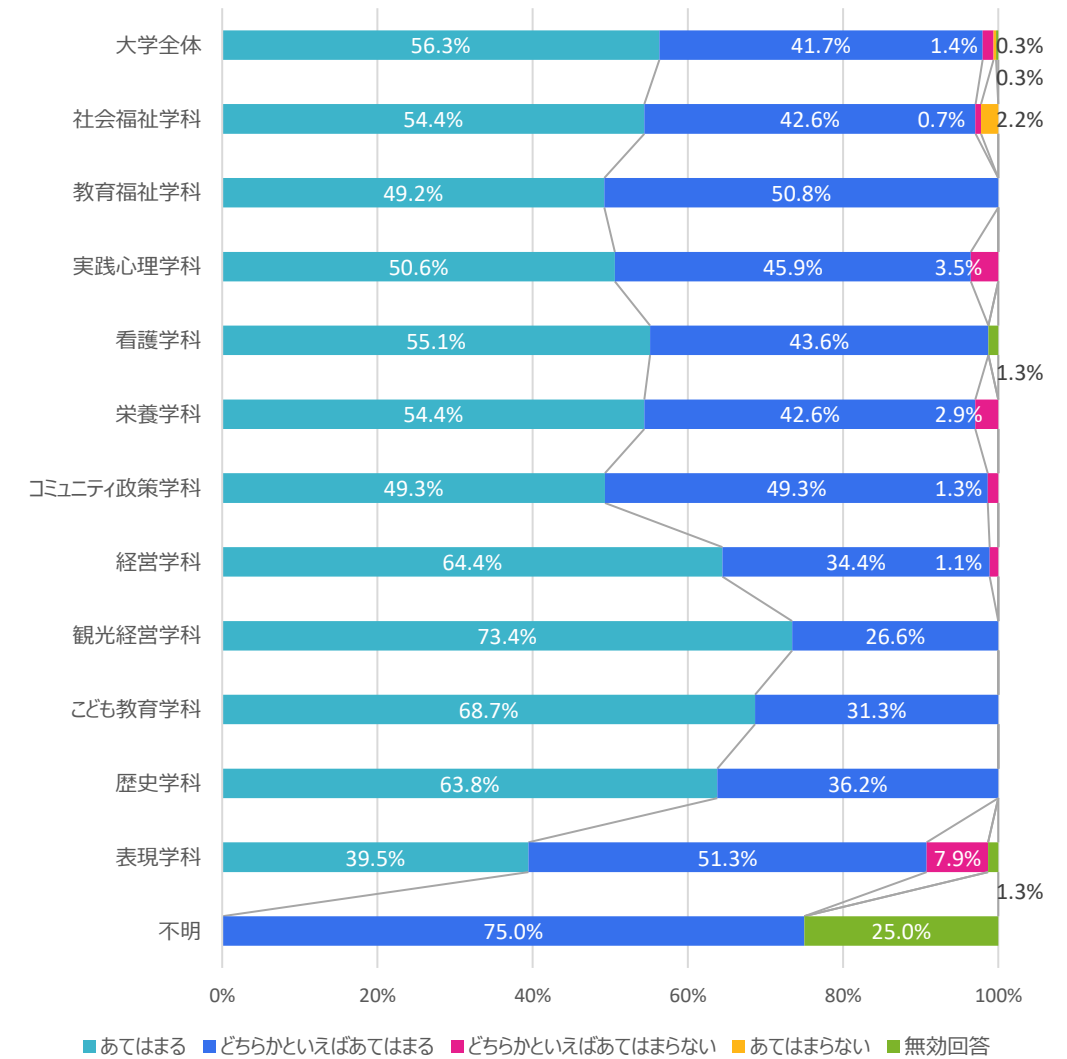


### 集計結果の分析

ほぼ全学科で肯定的回答の割合が95%を超えており、ディプロマ・ポリシーの達成を証明する極めて優秀な結果です。観光経営学科、こども教育学科では「あてはまる」が70%以上を示しており、専門性に対する強い自信が確立されています。他にも国家資格や明確な職業スキルに直結する学科で「あてはまる」が突出しており、実践的な学びが【身についたという確かな手応え】に直結しています。

カテゴリ：DP【2】（2）

修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。



### 集計結果の分析

全学科で肯定的回答の割合が90%以上を記録しました。4年間の学びの集大成として、ほぼ全ての学生が成長を実感しています。観光経営学科の「あてはまる」が73.4%、こども教育学科が68.7%と極めて高く、社会に出る直前の仕上がりとして万全の体制が整っていることを示しています。全カテゴリの中で最も「あてはまらない」の回答が少なく、最終的なアウトカムとしては高い納得感を引き出せています。